

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空英語Ⅱ

授業担当者（代表者）名：島藤 力

所属：航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.75	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	
授業時間 ⑦	4.75	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.5	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数＝ 9 名： 受験者数 A＝ 9 名： 単位取得者数 B＝ 9 名： 比率(B/A)＝ 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科： 航空

授業科目名： 工業数学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.88	4.0	より具体的な指導をしたい。
内容の理解度 ⑤	3.75	4.0	反応のない学生にも注目していきたい。
授業時間 ⑦	4.46	4.0	現状を維持したい。
担当者の熱意 ⑧	3.96	4.0	おおむね現状を維持したい。
板書・教材 ⑩	4.04	4.0	現状を維持したい。
理解への配慮 ⑪	4.25	4.0	現状を維持したい。
伝える工夫 ⑬	4.08	4.0	現状を維持したい。
アクティブな機会 ⑭	3.13	4.0	科目の性質上、基礎訓練的な面が大きいので難しい面もあるが、検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.83	4.0	より能動的なことを要求する課題を考えたい。
全体評価 ⑯	3.63	4.0	上記の改善により向上させたい。

登録者数＝49 名： 受験者数 A＝48 名： 単位取得者数 B＝48 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

より分かりやすさを優先させたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 3 日

授業対象学科： 航空・機械

授業科目名： 流体力学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.60	4.0	より具体的な指導をしたい。
内容の理解度 ⑤	4.10	4.0	現状を維持したい。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	現状を維持したい。
担当者の熱意 ⑧	4.20	4.0	現状を維持したい。
板書・教材 ⑩	4.10	4.0	現状を維持したい。
理解への配慮 ⑪	4.20	4.0	現状を維持したい。
伝える工夫 ⑬	3.80	4.0	工夫できることを検討したい。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	どのようなことができるか検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.40	4.0	より能動的なものを要求する課題を考えたい。
全体評価 ⑯	4.20	4.0	現状を維持したい。

登録者数＝39 名： 受験者数 A＝35 名： 単位取得者数 B＝33 名： 比率（B/A）＝94%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科： 航空・機械

授業科目名： 信頼性工学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.11	4.0	現状を維持したい。
内容の理解度 ⑤	4.22	4.0	現状を維持したい。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	現状を維持したい。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	現状を維持したい。
板書・教材 ⑩	4.56	4.0	現状を維持したい。
理解への配慮 ⑪	4.44	4.0	現状を維持したい。
伝える工夫 ⑬	4.44	4.0	現状を維持したい。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	現状を維持したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.78	4.0	より能動的なものを要求する課題を考えたい。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	現状を維持したい。

登録者数＝16 名： 受験者数 A＝15 名： 単位取得者数 B＝15 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科： 航空・機械

授業科目名： 機械力学

授業担当者（代表者）名： 古川 靖

所属： 航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.50	4.0	より具体的な指導をしたい。
内容の理解度 ⑤	3.63	4.0	より確認するようにしたい。
授業時間 ⑦	4.44	4.0	現状を維持したい。
担当者の熱意 ⑧	3.94	4.0	より熱意を持って臨みたい。
板書・教材 ⑩	3.69	4.0	どのような工夫ができるか検討したい。
理解への配慮 ⑪	3.63	4.0	より配慮した授業をしたい。
伝える工夫 ⑬	4.06	4.0	現状を維持したい。
アクティブな機会 ⑭	2.63	4.0	どのようなことが可能か検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.00	4.0	より能動的なものを要求する課題を考えたい。
全体評価 ⑯	3.88	4.0	上記改善により向上させたい。

登録者数＝47 名： 受験者数 A＝45 名： 単位取得者数 B＝44 名： 比率（B/A）＝98%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：TA

授業科目名：宇宙科学概論

授業担当者（代表者）名：高口

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.67	4.0	目標を達成している。今後も復習課題を中心に予習課題も念頭に置いて授業準備を行っていく。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	目標を達成している。
授業時間⑦	4.67	4.0	目標を達成している。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	目標を達成している。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標を達成している。今後も最新の情報が提供できる様努めて行く。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	目標を達成している。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	目標を達成している。今後も遠隔授業でもより理解が得られるような方法を考えて行く。
アクティブな機会 ⑭	4.67	4.0	目標を達成している。遠隔授業だったので、一方通行になりがちだった。今後も遠隔授業が続くのでアクティブラーニングの要因も取り入れるように努める。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	目標を達成している。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	トータルとして、目標を達成している。今後より改善に努めて行く。

登録者数＝ 6 名： 受験者数 A＝ 3 名： 単位取得者数 B＝ 3 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

対象項目は全て目標を満たしている。今後も最新の情報も盛り込み、学生が関心を引く授業となる様に努めて行く。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：TA

授業科目名：電気推進

授業担当者（代表者）名： 高口 所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.80	4.0	目標未達である。復習課題の回数、出し方に不十分な点があったのだと推定する。内容、与え方に一考を要すると思われる。
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	目標未達である。遠隔授業でも何等かの方法でサンプル品を提示する等、工夫が必要である。。
授業時間⑦	4.40	4.0	目標を達成している。
担当者の熱意 ⑧	4.40	4.0	目標を達成している。
板書・教材 ⑩	4.60	4.0	目標を達成している。今後も最新の情報が提供できる様努めて行く。
理解への配慮 ⑪	4.40	4.0	目標を達成している。
伝える工夫 ⑬	4.20	4.0	目標を達成している。今後も遠隔授業でもより理解が得られるような方法を考えて行く。
アクティブな機会 ⑭	3.20	4.0	目標未達である。遠隔授業におけるアクティブラーニングの要因も取り入れるように努める。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.80	4.0	目標未達である。今後は課題の与え方等に工夫をしていく。
全体評価 ⑯	3.60	4.0	トータルとして、目標未達である。今後はもう少し、学生目線でのより分かり易い授業内容として改善に努めて行く。

登録者数＝ 11 名： 受験者数 A＝ 5 名： 単位取得者数 B＝ 5 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

項目によっては目標達成の項目もあったが、全体評価としては、未達であった。内容的には、設計に踏み込むような細かい内容が多かった。今後は少し概要の要因も入れて具体的に理解しやすい授業に努めて行きたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：TA

授業科目名：伝熱工学

授業担当者（代表者）名： 高口 所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	目標は達成であるが、不十分な点があったと思われる。復習課題の内容、解説の方法に一考を要すると思われる。
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	目標を達成している。試験答案より、基礎的な所は理解できているが、応用的な理解が少し不足していた。今後、+αを考えて行きたい。
授業時間⑦	4.50	4.0	目標を達成している。
担当者の熱意 ⑧	4.25	4.0	目標を達成している。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標を達成している。今後も最新の情報が提供できる様努めて行く。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	目標を達成している。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	目標は達成であるが、下限である。今後も遠隔授業でもより理解が得られるような方法を考えて行く。
アクティブな機会 ⑭	3.25	4.0	目標未達である。遠隔授業におけるアクティブラーニングの要因も取り入れるように努める。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.75	4.0	目標未達である。今後は課題の与え方等に工夫をしていく。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	トータルとして、目標達成である。今後はもう少し、学生目線でのより分かり易い授業内容として改善に努めて行く。

登録者数＝ 10 名： 受験者数 A＝ 4 名： 単位取得者数 B＝ 4 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全体評価として目標を達成しているが、項目番号⑭と⑮が未達である。これから将来にわたって教育にとっては重要な要因であるため、一考を要すると思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：ヘリコプタ力学

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数＝ 5 名： 受験者数 A＝ 5 名： 単位取得者数 B＝ 5 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

Zoom でできる部分と対面でないと難しい部分を切り分けて、実習主体の授業としたが、時間配分的に後半が駆け足気味になった。本講義は今年度で終了し、来年度から「飛行力学と制御」として、一部本内容を継続する予定であるが、今年度の反省を踏まえ、学生がより興味を持てるように進めたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：熱力学

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	4.17	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数＝ 15 名： 受験者数 A＝ 15 名： 単位取得者数 B＝ 15 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

工学専攻の授業であるが、操縦学専攻からの受講者も多かった。エントロピーの概念等、わかりにくいと言われる事項を含む内容で、しかも全回 Zoom での授業となり、学生の反応もわかりにくかった。Zoom とは言え、やはり具体的な質問等で声をかけ、学生がしゃべる機会を増やす必要があると思った。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空機構造力学

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.56	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
授業時間 ⑦	4.56	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	4.11	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	3.89	4.0	Zoom で学生の様子がわかりづらいとは言え、具体的な問いかけを増やし理解度を確認するようこころがける。
伝える工夫 ⑬	4.44	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	演習主体の授業とは言え、わかりにくいところなど、問いかけを増やし学生がしゃべる場面を増やすようこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.11	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数＝12 名：受験者数 A＝12 名：単位取得者数 B＝12 名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全回 Zoom の授業となり、演習を主体に授業を進め、各自回答を写真で撮って Moodle に Up、印刷して添削、再度 Moodle にフィードバックと言う形をとり、かなり労力がかかった割には、定期テストの出来が今ひとつだったように感じた。Zoom では、学生の反応がわかりにくい面があるとは言え、やはり問いかけを増やして理解度を確認とか、演習問題の内容を量は増やさず、考えるポイントを強調し、頭にインプットしやすくする等の工夫が必要かと思った。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： ジェットエンジン

授業担当者（代表者）名： 山本 淳二

所属： 航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.17	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数＝ 12 名： 受験者数 A＝ 12 名： 単位取得者数 B＝ 12 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

本講義は、実験の日と重なったため、全てを対面で実施した。ジェットエンジンの熱サイクル計算と言う、決して簡単な内容でないこともあり理解度が個々人で違うと思う。各フェーズで演習を入れて実施しているが、やはりもう少し学生がしゃべる機会を作ればと思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 5 日

授業対象学科：航空工学科 整備工学専攻

授業科目名：航空従事者実地試験対策ゼミ

授業担当者（代表者）名：酒井 康行

所属：航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	目標値をクリアーしているので今後も努力、継続する。

登録者数＝ 8 名： 受験者数 A＝ 8 名： 単位取得者数 B＝ 8 名： 比率（B/A）＝100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

更に授業内容を充実させて、航空業界で活躍できる人材を育成する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 旅客機の運用

授業担当者（代表者）名： 森 智徳

所属： 操縦学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	新しく学ぶアイテムは 日にちをあけて 最低 3 回は レビューするよう心掛けた
授業時間 ⑦	4.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは 黒板で図に描いて実施
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	なるべく 前回の内容を 授業開始時に 質問した
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは 黒板で図に描いて実施
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	授業の性質上 ディスカッションは無い ただし授業開始時に 質問し発言する機会を与えた
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	中間の小テストと最後の試験の 2 回設定することで 学習に取り組む状況を作った
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数＝ 9 名： 受験者数 A＝ 9 名： 単位取得者数 B＝ 9 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：（有効アンケート 1/9）

特になし

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 計器飛行方式概論

授業担当者（代表者）名： 森 智徳

所属： 操縦学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	新しく学ぶアイテムは 日にちをあけて 最低 3 回は レビューするよう心掛けた
授業時間 ⑦	4.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは 黒板で図に描いて実施
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	なるべく 前回の内容を 授業開始時に 質問した
伝える工夫 ⑬	3.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは 黒板で図に描いて実施
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	授業の性質上 ディスカッションは無い ただし授業開始時に 質問し発言する機会を与えた
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	中間の小テストと最後の試験の 2 回設定することで 学習に取り組む状況を作った
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数＝ 10 名： 受験者数 A＝ 10 名： 単位取得者数 B＝ 9 名： 比率（B/A）＝ 90%

総括（自由記述に対する対応含む）：（有効アンケート 1/10）

⑬⑭の「3.00」という評価を 真摯に受け止め 今後の取り組みに活かせるようにしていきたい

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：ATC プロシジャ

授業担当者（代表者）名：森 智徳

所属：操縦学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	新しく学ぶアイテムは 日にちをあけて 最低 3 回は レビューするよう心掛けた
授業時間 ⑦	4.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは 黒板で図に描いて実施
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	なるべく 前回の内容を 授業開始時に 質問した
伝える工夫 ⑬	3.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは 黒板で図に描いて実施
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	授業の性質上 ディスカッションは無い ただし授業開始時に 質問し発言する機会を与えた
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	中間の小テストと最後の試験の 2 回設定することで 学習に取り組む状況を作った
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数＝ 10 名： 受験者数 A＝ 10 名： 単位取得者数 B＝ 8 名： 比率（B/A）＝ 80%

総括（自由記述に対する対応含む）：（有効アンケート 1/10）

⑬の「3.00」という評価を 真摯に受け止め 今後の取り組みに活かせるようにしていきたい

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 救命生存法

授業担当者（代表者）名： 西川文敏

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	2.5	4.0	予習、復習の重要性を更に強調する。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	質問、疑問点の有無を確認しながら授業を進めた。演習問題などを更に多く実施し、理解度を確認する。
授業時間 ⑦	4.0	4.0	現状を維持する。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	一部の学生に熱意が伝わらなかったことを真摯に受け止める。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	更に改善する。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	質問、疑問点の有無を確認しながら授業を進めた。演習問題などを更に多く実施し、理解度を確認する。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	更に図、写真等を活用する。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	グループ討論等、意見を発表する機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.0	4.0	更に動機付けに力を入れる。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	更に向上に努める。

登録者数＝ 9 名： 受験者数 A＝ 9 名： 単位取得者数 B＝ 9 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

より多くの事例を紹介するとともに、グループ討論等により考えさせる機会を増やす。また、オンライン授業で学生一人ひとりに目が行き届かなかったところがあったため、オンライン授業における学生の参加意識の向上、動機付けと演習問題の実施に更に力を入れる。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 3 日

授業対象学科： 島津 直史

授業科目名： 航空気象 I

授業担当者（代表者）名： 島津 直史 所属： 第一工業大学 航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.8	4.0	自己評価：秀 現教育法を継続
内容の理解度 ⑤	4.4	4.0	自己評価：憂 授業の後半に要点を質問し理解度の向上を図る。
授業時間 ⑦	4.7	4.0	自己評価：憂 現教育の時間配分を継続
担当者の熱意 ⑧	4.6	4.0	自己評価：憂 引き続き熱意をもって教育にあたる。
板書・教材 ⑩	4.8	4.0	自己評価：秀 現教育のスタイルを継続
理解への配慮 ⑪	4.8	4.0	自己評価：秀 適宜質問を入れて学生の理解度を把握しつつ授業を進める。
伝える工夫 ⑬	4.9	4.0	自己評価：秀 引き続きより分かりやすい授業を心掛ける。
アクティブな機会 ⑭	4.3	4.0	自己評価：憂 学生が発言しやすい授業環境を作っていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.6	4.0	自己評価：憂 気象に興味がわく内容を増やし学習意欲の向上を図る。
全体評価 ⑯	4.8	4.0	自己評価：秀 アンケート結果を踏まえ更なる授業内容の充実を図る。

登録者数＝36名： 受験者数 A＝36名： 単位取得者数 B＝36名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

航空気象の授業を通じて、パイロットにとって如何に気象の知識が重要であるかを理解できたものとする。前期に比べると後期はさらに真剣度が増し学習に取り組んでいたように感じられた。航空気象 I で理解すべき内容は概ね習得できたものとする。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空交通管制

授業担当者（代表者）名：島藤 力

所属：航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数＝ 9 名： 受験者数 A＝ 9 名： 単位取得者数 B＝ 9 名： 比率(B/A)＝ 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 17 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空力学

授業担当者（代表者）名：野田 晋二

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	3.0	4.0	アンケート回答者 1 名だが、回答者はあまり理解できなかったようである。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数＝6 名：受験者数 A＝ 6 名：単位取得者数 B＝ 6 名：比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業では、全翼機の製作・その動画を提出と工夫を行った。
もっと、改善・工夫ができるので、更にチャレンジしていく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 17 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 航空基礎製図

授業担当者（代表者）名： 野田 晋二

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	アンケート回答者 1 名だが、回答者はあまり理解できなかったようである。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	
アクティブな機会 ⑭	2.33	4.0	オンラインで実施したことが影響
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	4.67	4.0	

登録者数＝4 名： 受験者数 A＝ 4 名： 単位取得者数 B＝ 4 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンラインの授業となったため、製図の実習の時間を晴らして、講義の比率を増やした。
そのことも、⑭の点数が低いことに影響したと思われる。
製図を描く時間を基に戻すべきか、もう少し増やす方向で改善を図る。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期・後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 17 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空工学実験

授業担当者（代表者）名：野田 晋二

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	前期 3.67 後期 4.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	前期 3.67 後期 4.33	4.0	アンケート回答者 1 名だが、回答者はあまり理解できなかったようである。
授業時間 ⑦	前期 4.0 後期 4.67	4.0	
担当者の熱意 ⑧	前期 4.33 後期 4.33	4.0	
板書・教材 ⑩	前期 4.33 後期 5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	前期 4.33 後期 4.67	4.0	
伝える工夫 ⑬	前期 3.67 後期 4.33	4.0	
アクティブな機会 ⑭	前期 3.67 後期 4.0	4.0	オンラインで実施したことが影響
自ら学ぶ態度 ⑮	前期 4.0 後期 5.0	4.0	
全体評価 ⑯	前期 4.33 後期 4.33	4.0	

登録者数＝14 名：受験者数 A＝14 名：単位取得者数 B＝14 名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナで、前期はあまり実験ができなかった。後期に集中して実施した。

今年度は、新しい実験として、巨大紙飛行機製作・飛行試験、グライダー製作・飛行試験を実施し夙ことも高評価になったものとする。

来年度は、更に工夫・改善を行う予定である。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科： TE / TM

授業科目名： 電子工学通論

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.20	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.83	4.0	評価「3」以下が 32.6%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.43	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.04	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.24	4.0	遠隔授業に伴い PC 上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	3.67	4.0	評価「3」以下が 30.4%を占める。今後、理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.80	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.96	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.07	4.0	評価「3」以下が 23.9%を占める。今後、「予習・復習」に重点を置く評価基準に見直し更に学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.67	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数=39 名： 受験者数 A=36 名： 単位取得者数 B=31 名： 比率 (B/A) = 86.1%

総括（自由記述に対する対応含む）：■無資格除く平均出席率=95.9%。無資格平均出席率=26.7%

■内訳：合格(31)、再(6※1)、無資格(2※2)。※1：内 1 名未受験者。※2：全て留学生。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和2年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月19日

授業対象学科：TE / TA

授業科目名：電子計測Ⅱ / 電子計測

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.93	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.50	4.0	評価「3」が57.1%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.36	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	3.86	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.64	4.0	遠隔授業に伴いPC上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	3.86	4.0	評価「3」が42.9%を占める。今後、理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.93	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.79	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.14	4.0	評価「3」以下が50.0%を占める。今後、「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.29	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数=10名：受験者数A=9名：単位取得者数B=9名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：■無資格除く平均出席率=87.4%。無資格平均出席率=20.0%

■内訳：合格(9)、再(0)、無資格(1)

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：TE

授業科目名：応用電気回路Ⅱ

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.43	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.43	4.0	評価「3」以下が 50.0%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.79	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.57	4.0	特になし（現状維持）。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	遠隔授業に伴い PC 上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	4.36	4.0	視覚的に理解し易い様に、図或いはアニメーション動画を活用した点が評価されたと思われる。
伝える工夫 ⑬	4.36	4.0	同上。
アクティブな機会 ⑭	3.14	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	課題の実践により学習の習慣化に寄与したと思われる。「予習・復習」に重点を置く評価基準に見直し、更なる習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.93	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数=12 名：受験者数 A= 8 名：単位取得者数 B= 5 名：比率 (B/A) = 62.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：■無資格除く平均出席率=93.3%。無資格平均出席率=15.3%。

■内訳：合格(5)、再(4※)、無資格(3※)。※：留学生。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科： TE / TA

授業科目名： 電子回路 I / 電子回路基礎

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.18	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.45	4.0	評価「3」以下が 57.5%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.62	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.11	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.67	4.0	遠隔授業に伴い PC 上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	3.75	4.0	評価「3」以下が 32.9%を占める。今後、理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.95	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.55	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.59	4.0	評価「3」以下が 41.0%を占める。今後、「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.73	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数=76名： 受験者数 A=53名： 単位取得者数 B=39名： 比率 (B/A) = 73.6%

総括（自由記述に対する対応含む）：■無資格除く平均出席率=93.1%。無資格平均出席率=30.2%

■内訳：合格(39)、再(18※1)、無資格(19※2)。※1：未受験者含む。内 4 名留学生。※2：内 14 名留学生。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：TE

授業科目名：応用電子回路Ⅱ

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.70	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.00	4.0	評価「3」以下が 60.0%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	3.80	4.0	板書に時間を要する事で予定通り進めない場合があった。予め教材を用意し事前に配布する事で、授業進捗を平均化する。
担当者の熱意 ⑧	3.70	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.30	4.0	遠隔授業に伴い PC 上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	2.80	4.0	評価「3」以下が 60.0%を占める。今後、理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.30	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.50	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.70	4.0	評価「3」以下が 40.0%を占める。今後、「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.30	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数=27 名：受験者数 A=18 名：単位取得者数 B= 9 名：比率 (B/A) = 50.0%

総括（自由記述に対する対応含む）：■無資格除く平均出席率=89.1%。無資格平均出席率=13.4%

■内訳：合格(9)、再(13)、無資格(5)。※：内 10 名留学生。内 4 名未受験者。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：TE

授業科目名：電子デバイス工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.86	4.0	評価「3」が 42.9%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.29	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.29	4.0	教材・説明・発声等を評価頂いたものと考え、現状維持。
板書・教材 ⑩	4.29	4.0	教材・説明を評価頂いたものと考え、現状維持。
理解への配慮 ⑪	4.14	4.0	評価「3」が 28.6%を占める。今後、理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	4.29	4.0	教材・説明・発声等を評価頂いたものと考え、現状維持。
アクティブな機会 ⑭	3.43	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.57	4.0	評価「3」以下が 57.2%を占める。今後、「予習・復習」に重点を置く評価基準に見直す事で学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数＝ 6 名： 受験者数 A＝ 6 名： 単位取得者数 B＝ 6 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：■無資格除く平均出席率=91.1%。

■内訳：合格(6)、再(0)、無資格(0)

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の 4 つの要素で総合評価。

■今後の対応：

①理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

②「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直す事で学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：コンピュータ工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.45	4.0	自主学習についての改善効果が出てきた。難易度の高い授業であるので興味を持てるように更に工夫したい。
内容の理解度 ⑤	4.30	4.0	難易度が高い授業であるが、評点が 4.0 を達成できた。
授業時間 ⑦	4.68	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.56	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.47	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであったが、たまに板書が分からなかった学生がいるので注意する。
理解への配慮 ⑪	4.45	4.0	理解への配慮が無い、という学生が 0 であり、評価されていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.68	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.53	4.0	座学中心になりがちなので、アクティブラーニングについて改善を図る。授業中の小テストを導入してみる。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.45	4.0	改善の効果が有り、良い評価となっている。
全体評価 ⑯	4.51	4.0	満足度が「満足」「大変満足」が 9 割いるので、難易度が高い授業の割には評価されていると思う。

登録者数=92 名： 受験者数 A=85 名： 単位取得者数 B=78 名： 比率 (B/A) =92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席点(15%)、課題(45%)、期末課題（40%）、で評価した。

学習目標の達成：合格者は 92%。不合格者は課題を真面目に解いていない学生。

コンピュータの基礎的知識ではあるが、難易度が高く、できるだけ分かり易く、を心がけた成果が出てきていると考える。内容の理解度、アクティブな機会については評価が低いので、授業内容の改善を図る。

その他： 自由記述について意見は無かった。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：デジタル回路Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.44	4.0	改善の効果があり、目標を上回った。
内容の理解度 ⑤	4.22	4.0	殆どの学生が半分程度理解しており、難易度が高い授業であるためさらに改善を図る。
授業時間 ⑦	4.61	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.78	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.89	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.44	4.0	殆どの学生が配慮されている、という意見であった。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	4.22	4.0	授業では演習の時間も取り入れているが、更にアクティブラーニングについて改善を図る。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.61	4.0	座学のため一方的な授業に終始しており、改善を図る。
全体評価 ⑯	4.61	4.0	ほぼ全員が、満足度が「満足」「大変満足」の評価だった。

登録者数＝ 18 名： 受験者数 A＝ 18 名： 単位取得者数 B＝ 18 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席(15%)、授業の演習（45%）、期末の課題(40%)で評価した。

学習目標の達成：全員が合格しており、難易度の高い授業であるが、基本的な部分は学生は理解できていると思う。教科書と演習だけの授業であるので、更に色々な話題を取り込み、改善を図りたい。

その他： 自由記述については全て好意的意見であった。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：組込機器応用講座Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.36	4.0	自主学習についての十分行った成果が出ている。
内容の理解度 ⑤	4.36	4.0	組込機器応用講座Ⅰより難易度を上げているが、理解度の評価は改善している。
授業時間 ⑦	4.55	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.73	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.73	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	殆どの学生が配慮されている、という意見であったが、全く理解度に配慮していない、という学生が 2 名いるので改善する。
伝える工夫 ⑬	4.73	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	4.70	4.0	アクティブラーニングには注力しているので、良い評点であった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.27	4.0	積極的に学習する態度が取れるようになった学生が多数であり、評判の良い授業であった。
全体評価 ⑯	4.91	4.0	ほぼ全員が、満足度が「大変満足」の評価だった。

登録者数＝ 14 名： 受験者数 A＝ 11 名： 単位取得者数 B＝ 11 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、レポートの内容＋出席状況で評価した。

学習目標の達成：昨年開講した際は、内容が理解できない学生が多くいたが、今年度は改善を図り、授業のポイントを重点的に説明したため、評価は上がったようである。

その他：自由記述については、好意的な意見であった。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：電子工学実験 I

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.53	4.0	自主学習についての十分行った成果が出ている。
内容の理解度 ⑤	3.69	4.0	事前説明が少なく、学生に予習させる形態のため、内容を理解できていない学生が多い。授業中の説明を増やすなど工夫する
授業時間 ⑦	4.45	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.41	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.27	4.0	殆どの学生が配慮されている、という意見であったが、全く理解度に配慮していない、という学生が 3 名いるので改善する。
伝える工夫 ⑬	4.20	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.96	4.0	教員から指導された通りに実験するだけなので、学生が考えて実施するように指導していく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	大半の学生は積極的に取り組んでいるが、そうでない学生が 7 名おり、このような学生が興味を持てるように改善する。
全体評価 ⑯	4.02	4.0	ほぼ全員が、満足度が「満足」の評価だった。

登録者数＝ 52 名： 受験者数 A＝47 名： 単位取得者数 B＝41 名： 比率 (B/A)＝87%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、レポートの評価点数の平均＋出席点、で評価した。

学習目標の達成：合格者は 87% で、不合格者はレポート未提出者。不合格者については、今後、レポートが全数完了した時点で合格とする。

内容の理解度、アクティブな機会以外は、全て 4.0 以上の評点で、担当教員の熱意が学生に伝わったものとする。

今後は、学生の理解度向上に取り組むと共に、レポートを早期に提出するような学生サポートを行っていく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：応用物理

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	2.75	4.0	自主学習のポイントに関する指導・指示を全く行っていないと回答している学生が 1 名いたので、今後毎回行っていきたい。
内容の理解度 ⑤	3.00	4.0	内容については、元々難しい内容を扱っているが、今後はより丁寧な解説を行っていきたい。
授業時間 ⑦	3.75	4.0	授業時間については、今後、十分に活用していききたいと思う。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	熱意については、概ね評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.25	4.0	板書についても、概ね評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.25	4.0	理解への配慮についても、概ね評価を得ている。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	伝える工夫についても、概ね評価を得ている。
アクティブな機会 ⑭	2.75	4.0	アクティブな機会については、ほとんど一方的な説明と回答した学生が 2 名いたので、アクティブな機会を確保していきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.00	4.0	自ら考える機会は全くなかったと回答している学生が 1 名いたので、積極的に学習できるように指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	概ね評価を得ていると思う。

登録者数＝ 11 名： 受験者数 A＝ 9 名： 単位取得者数 B＝ 9 名： 比率 (B/A)＝ 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席・課題（100%）

学習目標の達成：講義の内容自体が非常に難しいにも関わらず、全体評価が 4.0 と高かったので良かったと思う。今後はさらに理解してもらえるように努力を続けたい。

その他：現在、意見発表・討論の時間をほとんど与えていないので、今後は講義の中でアクティブな時間を確保していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：TE, TM

授業科目名：電磁気学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.17	4.0	自主学習のポイントについては、概ね評価を得ていると思う。
内容の理解度 ⑤	4.28	4.0	内容の理解度についても、概ね評価を得ていると思う。
授業時間 ⑦	4.72	4.0	授業時間については、評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.48	4.0	熱意については、概ね評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.62	4.0	板書については、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.34	4.0	理解への配慮については、概ね評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	伝える工夫については、評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.69	4.0	アクティブな機会については、あまり設けていなかったもので、今後設けていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.03	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.52	4.0	評価を得ていると思う。

登録者数＝ 93 名： 受験者数 A＝ 85 名： 単位取得者数 B＝ 79 名： 比率 (B/A) ＝ 93 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席・課題（100%）

学習目標の達成：内容の理解度が 4.28、全体評価が 4.52 と非常に高かったので良かったと思う。今後はさらに理解してもらえるように努力を続けたい。

その他：現在、意見発表・討論の時間をほとんど与えていないので、今後は講義の中でアクティブな時間を確保していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：JAVA プログラミングⅡ

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.13	4.0	自主学習指導については、概ね評価を得ていると思う。
内容の理解度 ⑤	3.96	4.0	あまり理解できなかったと回答している学生がいるので、今後は、学生たちが理解できるよう工夫していきたい。
授業時間 ⑦	4.39	4.0	授業時間については、概ね評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.57	4.0	熱意については、評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.65	4.0	板書についても、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.61	4.0	理解への配慮についても、評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.61	4.0	伝える工夫についても、評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.91	4.0	アクティブな機会については、今後、学生の発表の場などを増やしていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.61	4.0	自ら学ぶ態度については、評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.48	4.0	概ね評価を得ていると思う。

登録者数＝ 27 名： 受験者数 A＝ 26 名： 単位取得者数 B＝ 26 名： 比率 (B/A)＝ 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席・課題（20%）

学習目標の達成：内容の理解度が 3.96 と目標を達成できなかったため、今後、理解してもらえるように
努力・工夫を続けたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：JAVA プログラミング演習Ⅱ

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.47	4.0	自主学習指導についての指導がされていないと回答している学生がいるので、今後は毎回、指導していきたい。
内容の理解度 ⑤	3.94	4.0	半分程度しか理解していないという学生がいたので、今後はより丁寧な解説を心掛けたい。
授業時間 ⑦	4.41	4.0	授業時間については、概ね評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.24	4.0	熱意についても、概ね評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.65	4.0	板書については、評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.53	4.0	理解への配慮についても、評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.47	4.0	伝える工夫については、概ね評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.82	4.0	プログラミング演習なのでアクティブな機会が多いと思うが、よりアクティブな機会を作っていこうと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.41	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.53	4.0	評価を得ていると思う。

登録者数＝ 23 名： 受験者数 A＝ 21 名： 単位取得者数 B＝ 21 名： 比率 (B/A) ＝ 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席・演習・課題（100%）

学習目標の達成：全体評価が 4.53 と高かったので良かったと思う。今後はさらに理解してもらえるように努力を続けたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：TA

授業科目名：電磁気学

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.33	4.0	自主学習のポイントについては、概ね評価を得ていると思う。
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	半分程度しか理解していないという学生が 2 名いたので、今後はより丁寧な解説を心掛けたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	授業時間については、評価を得ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	熱意についても、評価を得ていると思う。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	板書については、概ね評価を得ていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	理解への配慮についても、概ね評価を得ていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	伝える工夫については、評価を得ていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	アクティブな機会については、あまり設けていなかったもので、今後設けていきたいと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価を得ていると思う。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	概ね評価を得ていると思う。

登録者数 = 2 名：受験者数 A = 1 名：単位取得者数 B = 1 名：比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席・課題（100%）

学習目標の達成：全体評価が 4.33 と高かったので良かったと思う。今後はさらに理解してもらえるように努力を続けたい。

その他：現在、意見発表・討論の時間をほとんど与えていないので、今後は講義の中でアクティブな時間を確保していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：デジタルコンテンツ作成演習Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 渋谷良太

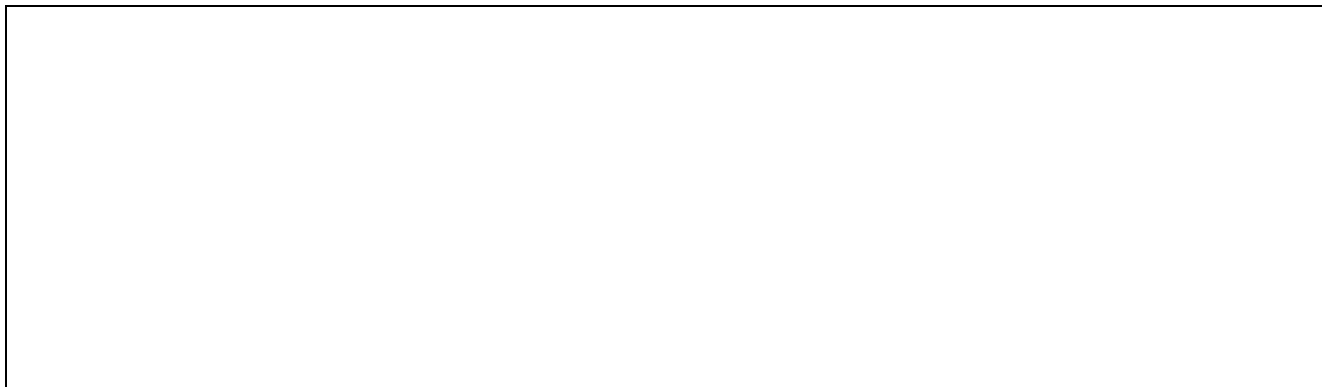
所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.5	4.0	できていた。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	できていた。学生が発表する課題をさらに増やす。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	できていた。学生の発表の機会をさらに増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	できていた。学生にアイデアを言語化させる機会を増やす。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	できていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援をさらに改善する。

登録者数＝ 2 名： 受験者数 A＝ 2 名： 単位取得者数 B＝ 2 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

霧島市役所の観光推進課、霧島市内の事業者の方々のご協力を頂き、産学官連携プロジェクトとして霧島ガストロノミーの活動に授業の一環として参加し、SNS を使った情報発信、Youtube の動画配信、ペルソナモデル、ユーザ生成コンテンツを中心に授業を展開した。Youtube の動画作成については、企画、取材、動画編集まで一貫して体験させることができ、動画編集能力、コミュニケーション能力の向上が見られた。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：データベースⅡ

授業担当者（代表者）名： 渋谷良太

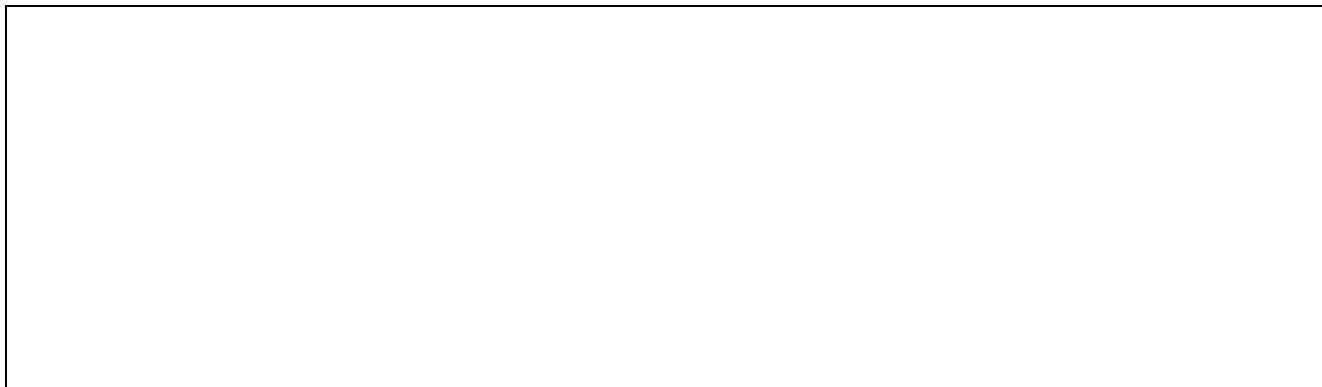
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.67	4.0	やや不十分であった。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	できていた。システム開発の課題をさらに増やす。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	やや不十分であった。課題でデータベースを使ったシステム開発を行わせ、それについて発表させる機会を作る。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	できていた。Web アプリケーション開発について自習させた。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	やや不十分であった。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数=10 名： 受験者数 A=10 名： 単位取得者数 B=8 名： 比率 (B/A) =80%

総括（自由記述に対する対応含む）：

データベースⅠで学んだことを活かし、Go 言語と PostgreSQL を使った Web アプリケーション開発を題材に、RDBMS の使い方、SQL の文法、Web アプリケーションの仕組みを中心に授業を行った。データベースⅠは、SQL の文法、データベースの理論が中心であったため、学生のモチベーションを保つのが難しかったが、データベースⅡでは学生が積極的に授業を受けられていた。この経験を活かし、データベースⅠから、やや実践に近い題材を扱い、データベースⅠ、Ⅱともに学生の高い満足度がえられるように改善したい。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科： 情報電子システム工学科

授業科目名： 基本情報処理講座

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.33	4.0	概ねできていた。自主学習の達成度を確認し、それに応じて学習指導内容を変えるようにする。
内容の理解度 ⑤	3.72	4.0	やや不十分であった。教科書の内容に対する補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
授業時間 ⑦	4.72	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	できていた。授業時間外での、授業についてのサポートを希望者に行う。
板書・教材 ⑩	4.94	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.44	4.0	できていた。定期的に小テストを実施し、その結果を確認して、授業内容の説明、時間の割き方を変えるようにする。
伝える工夫 ⑬	4.72	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.28	4.0	不十分であった。資格取得に関するメリット、デメリットに関する議論の機会を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	概ねできていた。資格試験の受験者数が増えるように促す。
全体評価 ⑯	4.39	4.0	概ねできていた。資格試験の出題範囲のうち、重要度をより細かく分析し、それに応じて説明時間を変更する。

登録者数＝42 名： 受験者数 A＝42 名： 単位取得者数 B＝31 名： 比率（B/A）＝74%

総括（自由記述に対する対応含む）：

経済産業省所管の情報処理に関する国家試験である、基本情報技術者試験の合格、そのための午前試験免除の獲得を目指した授業であった。資格取得を目指す授業であるため、受験者数／受講者数が 100%になるように促したい。また、合格率は 50%を目指したい(全国平均は 25%)。

学生の意見や、他の学生と議論させる機会が少なかったため、資格取得のメリット、デメリットを議論する機会を設けることで、資格取得のモチベーションの向上、意義の理解を行えるように改善する。また、試験の出題範囲の重要な箇所、学習者の理解が弱いところを見極め、説明、方法を改善する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：プログラミング入門Ⅱ

授業担当者（代表者）名：渋谷良太

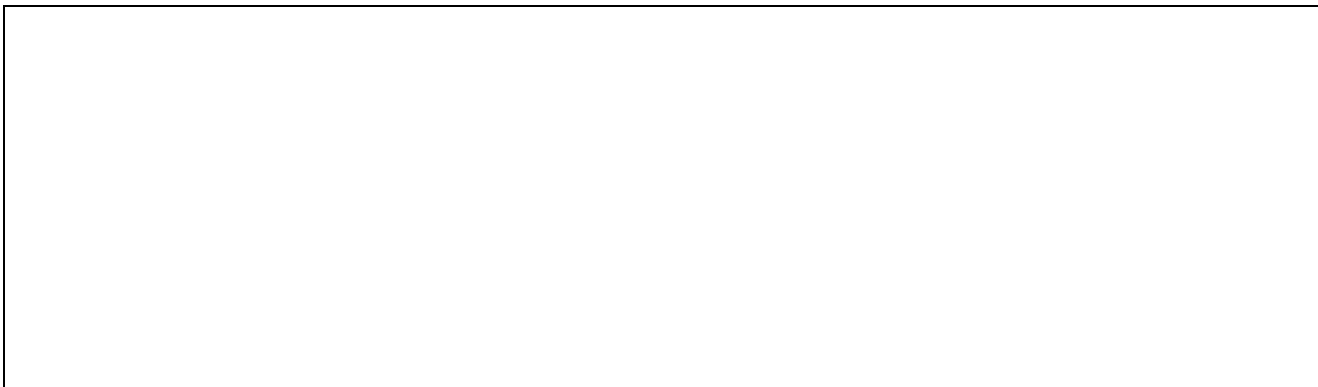
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.68	4.0	やや不十分であった。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	3.77	4.0	やや不十分であった。学生の理解度を確認する小テストの数を増やす。
授業時間 ⑦	4.59	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.27	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	4.77	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.32	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	2.68	4.0	やや不十分であった。最終課題発表以外にも、学生に発表させる機会を作る。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.41	4.0	できていた。オリジナルのアプリ開発について自習させた。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	やや不十分であった。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数＝44 名：受験者数 A＝44 名：単位取得者数 B＝38 名：比率（B/A）＝86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

Python を使ってプログラミングの基本的な考え方、CUI、GUI ゲームアプリ開発について授業を行った。オリジナルのアプリ開発を行わせる課題を最終課題として行わせ、そのアプリについてのプレゼンを他の学生の前で各自発表させた。大学初年度のプログラミングの授業であるため、今後の授業におけるプログラミング学習の意欲が高まるように、また自己学習能力を向上させるように、自ら手を動かして考える時間を多くとった。Scratch を学んだプログラミング入門Ⅰと比べ、単位を落とした学生が多く、プログラミング学習に挫折した学生も少なからずいた。いかにして挫折しない学生を増やし、レベルの高い学生の満足度を向上させるかが今後の課題である。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：基本情報処理講座 I

授業担当者（代表者）名： 渋谷良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.05	4.0	概ねできていた。自主学習の達成度を確認し、それに応じて学習指導内容を変えるようにする。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	やや不十分であった。教科書の内容に対する補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
授業時間 ⑦	4.45	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.3	4.0	できていた。授業時間外での、授業についてのサポートを希望者に行う。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.25	4.0	できていた。定期的に小テストを実施し、その結果を確認して、授業内容の説明、時間の割き方を変えるようにする。
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	2.45	4.0	不十分であった。資格取得に関するメリット、デメリットに関する議論の機会を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.15	4.0	概ねできていた。資格試験の受験者数が増えるように促す。
全体評価 ⑯	4.35	4.0	概ねできていた。資格試験の出題範囲のうち、重要度をより細かく分析し、それに応じて説明時間を変更する。

登録者数＝49 名： 受験者数 A＝49 名： 単位取得者数 B＝38 名： 比率（B/A）＝77.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

経済産業省所管の情報処理に関する国家試験である、基本情報技術者試験の合格、そのための午前試験免除の獲得を目指した授業であった。資格取得を目指す授業であるため、受験者数／受講者数が 100%になるように促したい。また、合格率は 50%を目指したい(全国平均は 25%)。

学生の意見や、他の学生と議論させる機会が少なかったため、資格取得のメリット、デメリットを議論する機会を設けることで、資格取得のモチベーションの向上、意義の理解を行えるように改善する。また、試験の出題範囲の重要な箇所、学習者の理解が弱いところを見極め、説明、方法を改善する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：経営情報システムⅡ

授業担当者（代表者）名： 渋谷良太

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.0	4.0	やや不十分であった。レポート課題を増やし、それについて発表させる機会を設ける。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	できていた。学生による発表等、学生がアウトプットする機会を増やす。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	できていた。レポート課題の内容を、学習者にプレゼンさせるようにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	できていた。Web のニュースサイト等で授業内容に関する情報収集をする習慣をつけさせ、プレゼンさせるようにする。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	概ねできていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数＝1 名： 受験者数 A＝1 名： 単位取得者数 B＝1 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

企業の経営活動を支援する情報システムの授業であったため、企業での実際の経験、社会のタイムリーな話題をできるだけ伝えるようにした。学生の意見や、他の学生と議論させる機会が少なかったため、課題やレポートの内容を他の学習者にプレゼンさせるように改善する。また小グループで授業の内容について議論する時間、個々の学生と対話する時間を増やすようにする。

ビジネスプランコンテスト、RESAS 地方創生政策アイデアコンテスト等への参加も、学生自らが学ぶ時間、態度の改善につながるため、参加を検討する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：情報電子基礎数理 II

授業科目名：TE(1)

授業担当者（代表者）名：齊 培恒

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	2.00	4.0	自主的学習を徹底的に行い。教員会ら一方的に講義することないように改善。
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	
授業時間 ⑦	4.67	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.33	4.0	オフライン遠隔授業の双方向機会を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	
アクティブな機会 ⑭	1.67	4.0	遠隔授業のアクティブ機会を作ることを取り込みます。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数=71 名：受験者数 A=49 名：単位取得者数 B=49 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生のレベルは非常にバラツキが大きいと感じています。今後、過去 3 年間の経験を生かして、数学の重要性を認識してもらい、多くの学生の今後の専門科目に役に立つように、レベルアップさせます。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：ネットワーク工学 II

授業科目名：TE(3)

授業担当者（代表者）名：齊 培恒

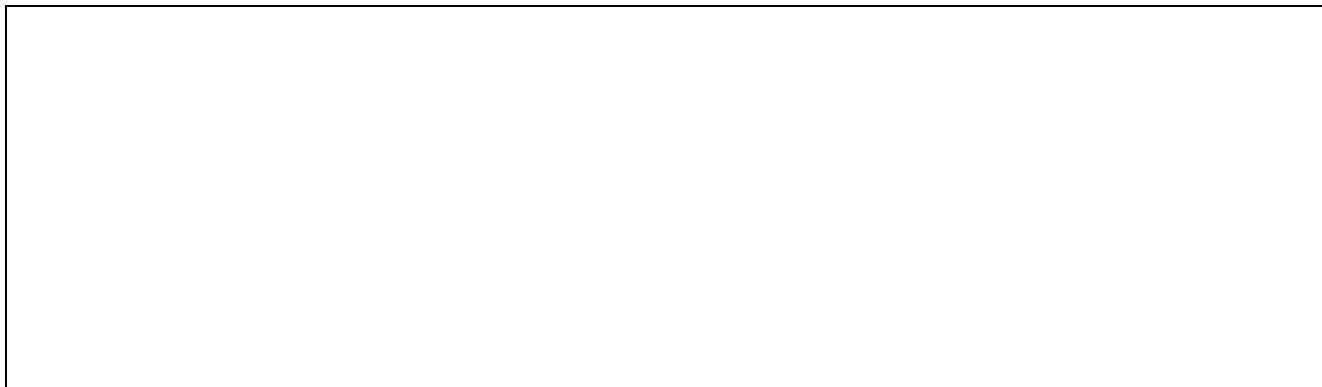
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.75	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	
授業時間 ⑦	4.75	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	遠隔授業のアクティブ機会を作ることを取り込みます。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.25	4.0	
全体評価 ⑯	4.75	4.0	

登録者数=49 名：受験者数 A=41 名：単位取得者数 B=39 名：比率 (B/A) =95%

総括（自由記述に対する対応含む）：

大学院での授業レベルを下げて、ネットワーク基礎と応用を中心に行った。一部漫画形式、板書、プロジェクターを組み合わせることで理解度を上げる。遠隔授業のやり方を見直します。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：電波工学 II

授業科目名：TE(3)

授業担当者（代表者）名：齊 培恒

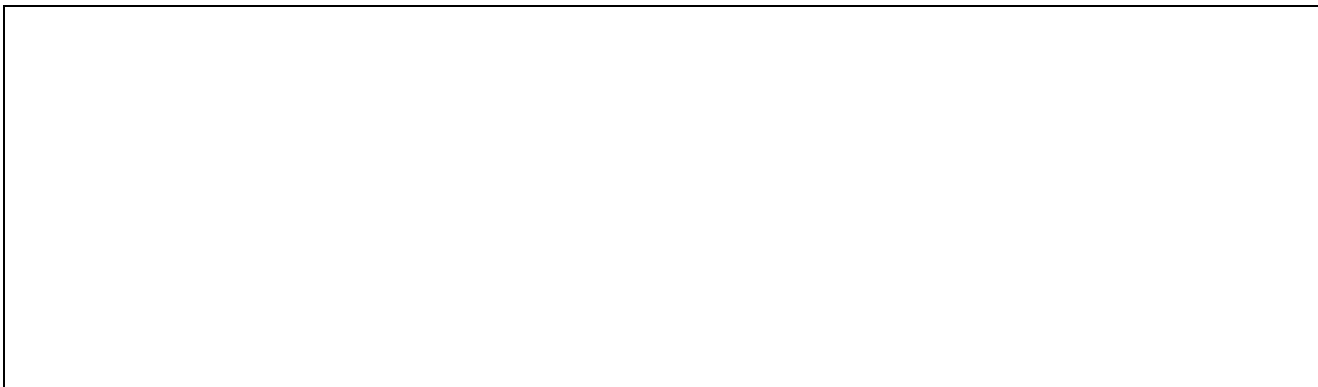
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.71	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.43	4.0	
授業時間 ⑦	4.57	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.57	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.71	4.0	遠隔授業のアクティブ機会を作ることを取り込みます。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.86	4.0	
全体評価 ⑯	4.71	4.0	

登録者数=27 名：受験者数 A=26 名：単位取得者数 B=26 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

大学院での授業レベルを下げて、情報通信工学基礎と無線技術を中心に行った。一部漫画形式、板書、プロジェクターを組み合わせる理解度を上げる。遠隔授業のやり方を見直します。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：通信工学 II（通信工学）

授業科目名：TE(2)、TA

授業担当者（代表者）名：齊 培恒

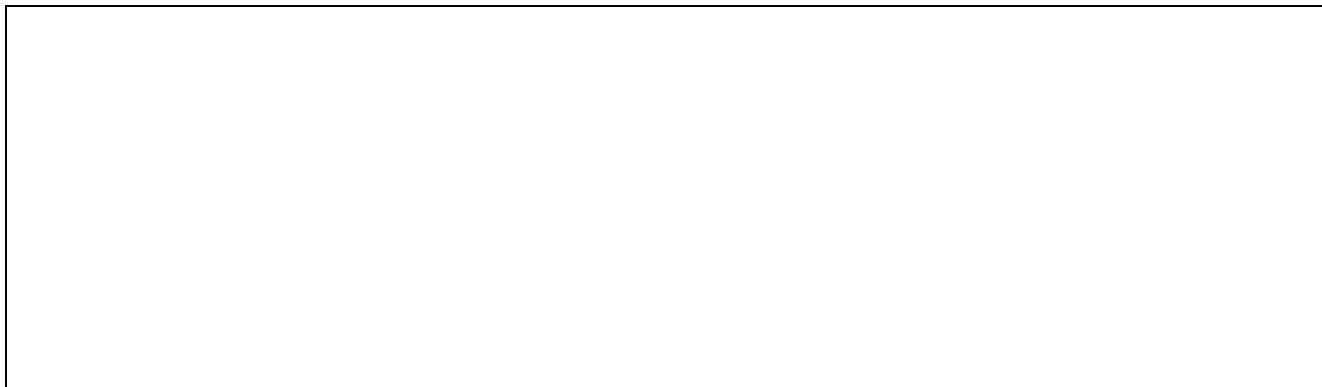
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.50	4.0	現代社会での応用の説明を増やして自習の意欲を起す努力をする。昨年度より改善されたが、遠隔授業のため工夫が必要。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	
授業時間 ⑦	4.50	4.0	
担当者の熱意 ⑧	3.50	4.0	Moodle 上のオフライン授業なので、講義資料から熱意がないことでしょう。来期 Zoom に切り替えることを考えます。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	遠隔授業のアクティブ機会を作ることを取り込みます。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数＝49 名：受験者数 A＝41 名：単位取得者数 B＝39 名：比率（B/A）＝95%

総括（自由記述に対する対応含む）：

大学院での授業レベルを下げて、情報通信工学基礎とモバイルネットワークを中心に行った。一部漫画形式、板書、プロジェクターを組み合わせることで理解度を上げる。遠隔授業のやり方を見直します。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：情報工学演習

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.40	4.0	予習・復習の課題を整えたい。
内容の理解度 ⑤	4.20	4.0	共通教育で学ぶ数学の項目と数値計算手法との関連を機会がある毎に説明を行った。理解を得るよう工夫して説明したい。
授業時間 ⑦	4.00	4.0	時間内に終了するよう時間配分を留意した。
担当者の熱意 ⑧	4.40	4.0	資料の準備、課題の解説を丁寧に行った。
板書・教材 ⑩	4.60	4.0	パワーポイントを活用したため、内容が伝わりやすかったと思われる。また、要点などスライド抜粋プリントを配布した。
理解への配慮 ⑪	4.20	4.0	数式による手法の挙動を図・グラフ等を用いて、理解しやすいように努めた。さらに理解のための工夫を行いたい。
伝える工夫 ⑬	4.20	4.0	パワーポイントを活用したため、内容が伝わりやすかったと思われる。また、スライド資料を Moodle 上で配布した。
アクティブな機会 ⑭	3.80	4.0	課題演習を通して応用力を身につけるよう工夫した。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.20	4.0	気象の数値予報や流体のシミュレーション、システム制御、CG など応用事例を提示した。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	学生の理解が進むよう、さらに改善したい。

登録者数=15 名：受験者数 A=13 名：単位取得者数 B=11 名：比率 (B/A) =85 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

Excel 上でステップ毎に計算・繰り返しを行い、結果をグラフ化することで、数値計算アルゴリズムの動作を理解する演習である。数学的手法の定番アルゴリズムの理解を主目標とした一方、気象の数値予報や画像処理、システム制御など広範囲に応用事例を提示し、学生の興味を喚起するよう心掛けた。

一方で、リモート授業形式の演習は細かい指導が十分できないため、今後の検討を要する。

自由記述における意見・コメント：「資料が工夫されていて非常に分かりやすかった」・・・リモート演習に資する提示資料をさらに改善したい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科： 情報電子システム工学科

授業科目名： 電子材料Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 内村俊二

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	4.38	4.0	原子レベルの内容であったため具体的な理解が実感でき難いと思われたため、可能な限り図・アニメの提示を行った。
授業時間 ⑦	4.62	4.0	引き続き開始時間、終了時間を厳守したい。
担当者の熱意 ⑧	4.54	4.0	熱意が学習内容の理解につながるよう改善していきたい。
板書・教材 ⑩	4.85	4.0	リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前に Moodle 上でダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.31	4.0	授業内容理解の確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.69	4.0	数式に対して定性的な解説および図示を行うことで、理解を深めるよう心掛けた。
アクティブな機会 ⑭	3.38	4.0	学習内容と関連する最先端の事項の調査・報告する課題を課した。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.77	4.0	学習内容と関連する最先端の事項の調査・報告する課題を課した。
全体評価 ⑯	4.46	4.0	興味と理解が進むように改善を継続したい。

登録者数=24 名： 受験者数 A=23 名： 単位取得者数 B=23 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
- ・原子・電子レベルの現象を理解してもらうため、図・アニメによる説明も可能な限り行った。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・自由記述における意見・コメントはなし。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科： 情報電子システム工学科

授業科目名： アルゴリズムⅡ

授業担当者（代表者）名： 内村俊二

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.30	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	重要事項の定着と理解の度合いの確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。
授業時間 ⑦	4.13	4.0	引き続き開始時間、終了時間を厳守したい。
担当者の熱意 ⑧	4.39	4.0	熱意が学習内容の理解につながるよう改善していきたい。
板書・教材 ⑩	4.52	4.0	リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.17	4.0	授業内容理解の確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	資料プリントやパワーポイントの導入を行った。また、授業内では可能な限り図・アニメの提示を行った。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	学習内容と関連する最先端事項の調査・報告する課題を課した。多人数リモート授業における議論の方法を検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.04	4.0	理解確認のための演習を増やし、内容の理解を促した。
全体評価 ⑯	4.09	4.0	学生の理解が進むよう、さらに改善したい。

登録者数=66 名： 受験者数 A=61 名： 単位取得者数 B=58 名： 比率 (B/A) = 95 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
- ・アルゴリズムの動き・データの変化を理解するため、図・アニメによる説明も可能な限り行った。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・自由記述における意見・コメント・・・なし

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科： 情報電子システム工学科

授業科目名： 電子工学実験Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 内村俊二

所属： 情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.83	4.0	関連する他教科・単元の提示、または当該教科の教科書を持参させる等の対応を検討したい。
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	予習、実験、レポート完成で内容の理解が深まると思われる。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
授業時間 ⑦	4.42	4.0	予習レポートで実験方法を予習していたため、規定の時間内でスムーズに実験を行えた。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	実験レポートの添削をていねいに行うことで、レポートの完成度および提出率を高めたい。
板書・教材 ⑩	4.25	4.0	一部の実験テーマにおいて補助資料の導入を行い、Moodle 内で事前にダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	予習、実験、レポート完成で内容の理解ができると考える。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
伝える工夫 ⑬	4.58	4.0	説明および補助資料の提示により、実験内容の理解を進めた。
アクティブな機会 ⑭	4.42	4.0	予習、実験、レポート完成で知識が習得できると考える。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.42	4.0	予習、実験、レポート完成で知識が習得できると考える。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
全体評価 ⑯	4.42	4.0	実験レポートの添削をていねいに行うことで、レポートの完成度および提出率を高めたい。

登録者数=30 名： 受験者数 A=28 名： 単位取得者数 B=27 名： 比率 (B/A) = 96 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

感染対策を行いながら対面実施した。前期に引き続き予習レポートとして実験レポートの前半部分の作成を課し、実験のたびに個々のレポートの点検と指導を行った。次の 2 点を目的としている：

- (1) 実験レポートの前半部分をあらかじめ作成しておくことで、実験レポートの完成を早める。
- (2) 実験方法を前もって書くことで実験内容・手順が理解でき、実験がスムーズに進行する。

予習レポートはほぼ全員が書いており、実験の準備はできていたと思われる。また、毎回予習レポートをチェックし指導することで、レポート完成および提出を促進する効果はあったと思われるが、レポートの提出状況は好転しなかった。指導内容・仕方を検討する必要がある。

授業改善計画書（令和 2 年度後期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：情報電子システム工学科・機械システム工学科

授業科目名：ソフトウェア工学

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.00	4.0	毎回 Moodle にあげた教材を、後で見直すよう指導しており、自主学習指導をされていると評価された。
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	毎回の授業の課題の他、2 回小テストを実施して、その内容を期末テストに反映ししており、評価されたと考える。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	担当者の熱意についても高評価であった。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	教材は毎回 ppt⇒pdf で、分かりやすいものを提供できたと考えている。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	オンライン授業で学生の理解度がなかなか図れなかったが、課題により、理解度を向上させる努力をしていると評価された。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	伝える工夫についても、今回は高評価であった。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	オンライン授業で、当てたり、自ら発表したりという機会があまり作れていない。今後工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	自ら学ぶ態度については、今回自主教材を提供したため、高評価になった。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	今年度はオンライン授業で Moodle にある教材をいつでも復習できる状態にしてある等、工夫が評価されたと考えられる。

登録者数=28 名：受験者数 A=28 名：単位取得者数 B= 27 名：比率 (B/A) =96 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

まだ自ら学ぶ態度についての配慮が足りないことから、今後自主的に学べる教材を提供していきたいと考える。

授業改善計画書（令和 2 年度後期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：C 言語プログラミング II

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.00	4.0	Moodle にあげた教材を使いながら、毎回課題を与えて学習するよう指導した。今後も自主学习指導を徹底したい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	Moodle にあげた教材は後で見直しができるようにしており、授業の理解度をあげる助けになったと思われる。
授業時間 ⑦	3.00	4.0	授業時間が足りなくて中途半端になることがあった。今後は時間管理を徹底したい。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	担当者の熱意は感じてもらっていると思う。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	教材は毎回 ppt⇒pdf で、分かりやすいものを提供できたと考えている。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	オンラインで受講している学生の理解度をあげることが難しかった。今後も課題を使って理解度を向上させていきたい。
伝える工夫 ⑬	3.00	4.0	伝える工夫については、今後更に教材をブラッシュアップさせていきたい。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	学生に当てたり、自ら発表したりという機会があまり作れていない。今後工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	自ら学ぶ態度については、それなりの教材を作成して評価をしてもらっていると思われる。
全体評価 ⑯	3.00	4.0	今年度はハイブリッド授業をした分、指導が難しい面があり、評価が低くなった。今後工夫したい。

登録者数=71 名： 受験者数 A=70 名： 単位取得者数 B= 65 名： 比率 (B/A) =93 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

今後教材についての工夫をしていきたいと考える。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 30 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 電子応用機器

授業担当者（代表者）名： 仮屋孝二

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.33	4.0	評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	評価を得ていると思う
授業時間 ⑦	4.67	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.83	4.0	理解度の低いが学生にも十分配慮する講義を心掛ける
伝える工夫 ⑬	4.83	4.0	動画や実物などを用いて理解への配慮を心掛ける
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.67	4.0	評価を得ていると思う

登録者数＝ 3 名： 受験者数 A＝ 3 名： 単位取得者数 B＝ 3 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

・履修者 3 名に対し、6 名が授業評価アンケートに参加しているため、評価は不明

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 30 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 自動車工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 仮屋孝二

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.50	4.0	「毎回の指導」と「ほとんどの回で指導」が約 8 割であるが、「されていない」もあり、指導及び指示の理解度が不明である
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	「半分程度の理解」が 33%あり、動画などを用いた説明を増やし、ていねいな説明を心掛ける
授業時間 ⑦	4.50	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	3.83	4.0	理解度の低いが学生にも十分配慮する講義を心掛ける
伝える工夫 ⑬	3.83	4.0	動画や実物などを用いて理解への配慮を心掛ける
アクティブな機会 ⑭	3.83	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	3.83	4.0	「どちらでもない」評価の学生が「満足」評価になるように、理解への配慮と伝える工夫に取り組む

登録者数＝ 6 名： 受験者数 A＝ 6 名： 単位取得者数 B＝ 6 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・用語や構造を理解できるように写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和2年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年 3月 30日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車検査

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	「毎回の指導」が75%であるので、評価を得ていると思うが、さらに自主学習のポイントを丁寧に指導していく
内容の理解度 ⑤	4.25	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で100%であり、授業内容の改善効果がでていると思う
授業時間 ⑦	4.50	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	「十分配慮」が75%であり、評価を得ていると思う
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	評価を得ていると思う
アクティブな機会 ⑭	3.75	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.25	4.0	「満足」と「大変満足」が75%であり、評価を得ていると思う

登録者数＝6名：受験者数A＝6名：単位取得者数B＝6名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・実務を理解しやすいように、さらに写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和2年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年 3月 30日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車法規

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.64	4.0	「毎回の指導」と「ほとんどの回で指導」が93%であるので、評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	4.57	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で100%であり、授業内容の改善効果がでていると思う
授業時間 ⑦	4.71	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.71	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.71	4.0	「ある程度配慮」と「十分配慮」が93%であり、評価を得ていると思う
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	評価を得ていると思う
アクティブな機会 ⑭	4.43	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.79	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.64	4.0	「満足」と「大変満足」が100%であり、評価を得ていると思う

登録者数＝12名：受験者数A＝11名：単位取得者数B＝11名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・教科者中心の講義であるが、用語や規定を理解できるように写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科（1 年）

授業科目名：材料工学

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.32	4.0	章ごとに小テストを行い、授業外で自主学習するよう仕向けた。
内容の理解度 ⑤	3.79	4.0	公式、計算問題は少ないので理解するのは難しくないはずである。1 部の学生が足を引っ張っているものと思われる。
授業時間 ⑦	4.58	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
担当者の熱意 ⑧	4.53	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
板書・教材 ⑩	4.74	4.0	PPT 資料を中心に授業を行い、補足の動画も見せながら、理解度を深めるよう努めた。
理解への配慮 ⑪	4.47	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
アクティブな機会 ⑭	4.05	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.21	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
全体評価 ⑯	4.32	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=21 名：受験者数 A=20 名：単位取得者数 B=20 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械加工学

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.60	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題をさらに織り交ぜていく。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	小演習増や実際の工程見学も織り交ぜていきたいところ。
授業時間 ⑦	4.80	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題の説明時間も確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	社会で活かせる！を迫及し、より具体的事例をできるだけ動画・現地現物でさらに織り交ぜる
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	オンライン授業にスマホで参加している学生見えているか？
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	小演習等をもう少し多用しながら、確認していく。
伝える工夫 ⑬	4.40	4.0	図絵・動画を多用した。現地現物ならなお良いのだが。
アクティブな機会 ⑭	2.40	4.0	小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.40	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.40	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。

登録者数＝24 名： 受験者数 A＝17 名： 単位取得者数 B＝13 名： 比率（B/A）＝ 76%

総括（自由記述に対する対応含む）：

2 年生での機械工作実習を見据えて、加工条件の計算問題を多用した。

演習の計算問題に拒否反応を示す学生も多いので、問題の出し方に留意していきたい。

また量が多すぎるとの意見もあったので、もう少しポイントを絞り込んでゆっくり進めていきたい。

オンラインでも演習・発表→相互理解が活発に行われるような施策を考えていきたい。

また実際の工程見学も織り交ぜていきたいところ。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科・航空工学科エンジニアコース

授業科目名：CAD 基礎・CAD リテラシー

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.35	4.0	学生個人用 CAD ソフトを紹介し、 自主的に自宅学習できるようにしたい。
内容の理解度 ⑤	4.06	4.0	個別差が大きく、全体同時進行しにくい。 TA 制度が充実できると良い。
授業時間 ⑦	4.35	4.0	テキスト説明より、使うより慣れろ！なので、 演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	3.82	4.0	社会で活かせる！を念頭にテキスト以外の演習も 織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	3.88	4.0	ディスプレイが配置されているが壊れているところがある。 改善必要。
理解への配慮 ⑪	3.71	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり 遅れている学生の対応に時間がとられる。
伝える工夫 ⑬	3.82	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.12	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.24	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
全体評価 ⑯	3.82	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。 さらに上を目指せるように指導していく。

登録者数＝41 名： 受験者数 A＝34 名： 単位取得者数 B＝33 名： 比率（B/A）＝97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

今期は人数多く、個別対応が手薄になった。

さらに人数増えると困難が予想される。TA の充実ができると良い。

進捗の速い学生への追加課題・声掛け・対応もやれるようにしていく。

操作基本なので、反復練習できるように指導していく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械製図

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.59	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題を織り交ぜてより理解を深める。
内容の理解度 ⑤	4.29	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題を織り交ぜてより理解を深める。
授業時間 ⑦	4.82	4.0	テキスト説明より、使うより慣れろ！なので、演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.76	4.0	社会で活かせる！を念頭に現物も準備し説明の中に織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	4.76	4.0	プロジェクターの字が見にくい声もあったので、あまり書き込み過ぎないように留意。
理解への配慮 ⑪	4.82	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり遅れている学生の対応に時間がとられる。
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.76	4.0	製図を仕上げるのに一所懸命になり、構造的工夫点を織り込む課題も課したが、発表時間を確保できなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.59	4.0	大半の学生が課題を自宅持ち帰りで実施していた。量を減らし、質を上げる工夫が必要。
全体評価 ⑯	4.59	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。もう少し足並みを揃えて進められるように調整。

登録者数＝23 名： 受験者数 A＝18 名： 単位取得者数 B＝17 名： 比率（B/A）＝94%

総括（自由記述に対する対応含む）：

トレース→部品図→組立図製図とステップアップできるようにしたが、本来は設計の要素も少し入れたところだった。

量が多すぎるとの声が多かったので、量をもう少し絞り込み質を上げる方へ振り替えたい。

進捗に大幅な格差ができてしまい、個別指導を繰り返す状態となった。

もう少し足並みが揃うように区切って進めていく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：数値シミュレーション

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	講義内容に関する自主学習のための課題・宿題を織り交ぜていく。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	静解析で手計算にも時間を割き、CAEの結果との整合性を取る時間を確保し、理解を深める。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	各端末を利用した計算能力により待ち時間大。計算用 CPU が準備できると良い。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	社会で活かせる！を迫及し、より具体的事例を動画で織り交ぜながら説明を行った。
板書・教材 ⑩	4.50	4.0	CAEソフトのVerUPに見合ったテキストへ更新。説明しやすくなった。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	類似事例の反復演習ができるような、演習を準備していく。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	図絵・動画を多用した。現地現物ならなお良いのだが。
アクティブな機会 ⑭	4.50	4.0	小人数だったので、アクティブにできていたと思うが、内容理解度の低さに起因するものかもしれない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。

登録者数＝5 名： 受験者数 A＝3 名： 単位取得者数 B＝3 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

卒研で使用する学生が多々いたので、授業→卒研で反復練習により理解が深まったと思われる。
CAE 結果の Moodle への提出をデータ量大の為断念。サーバー増強できると良い。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科・航空工学科エンジニアコース

授業科目名：CAD 基礎・CAD リテラシー

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.35	4.0	学生個人用 CAD ソフトを紹介し、 自主的に自宅学習できるようにしたい。
内容の理解度 ⑤	4.06	4.0	個別差が大きく、全体同時進行しにくい。 TA 制度が充実できると良い。
授業時間 ⑦	4.35	4.0	テキスト説明より、使うより慣れろ！なので、 演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	3.82	4.0	社会で活かせる！を念頭にテキスト以外の演習も 織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	3.88	4.0	ディスプレイが配置されているが壊れているところがある。 改善必要。
理解への配慮 ⑪	3.71	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり 遅れている学生の対応に時間がとられる。
伝える工夫 ⑬	3.82	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.12	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.24	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
全体評価 ⑯	3.82	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。 さらに上を目指せるように指導していく。

登録者数＝41 名： 受験者数 A＝34 名： 単位取得者数 B＝33 名： 比率（B/A）＝97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

今期は人数多く、個別対応が手薄になった。

さらに人数増えると困難が予想される。TA の充実ができると良い。

進捗の速い学生への追加課題・声掛け・対応もやれるようにしていく。

操作基本なので、反復練習できるように指導していく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 13 日

授業対象学科： 機械システム

授業科目名： 機械要素強度学

授業担当者（代表者）名： 大恵 克俊

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.10	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.35	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.40	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.58	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	4.18	4.0	高い評価を得られていると考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	5.35	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数＝24名： 受験者数 A＝21名： 単位取得者数 B＝18名： 比率（B/A）＝86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）および定期試験（70%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試も含めて 86%と H31 年度（87%）とほぼ同等の値となった。全ての項目で目標を達成した。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 13 日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：福祉工学

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.71	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.46	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.64	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.57	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.39	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.71	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.68	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	4.39	4.0	高い評価を得られていると考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.46	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数＝19名：受験者数 A＝17名：単位取得者数 B＝16名：比率（B/A）＝94%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）およびレポート（70%）で評価した。

学習目標の達成：全ての項目において目標を達成した。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科（1 年）

授業科目名：材料工学

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.32	4.0	章ごとに小テストを行い、授業外で自主学習するよう仕向けた。
内容の理解度 ⑤	3.79	4.0	公式、計算問題は少ないので理解するのは難しくないはずである。1 部の学生が足を引っ張っているものと思われる。
授業時間 ⑦	4.58	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
担当者の熱意 ⑧	4.53	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
板書・教材 ⑩	4.74	4.0	PPT 資料を中心に授業を行い、補足の動画も見せながら、理解度を深めるよう努めた。
理解への配慮 ⑪	4.47	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
アクティブな機会 ⑭	4.05	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.21	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
全体評価 ⑯	4.32	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=21 名：受験者数 A=20 名：単位取得者数 B=20 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科（1 年）

授業科目名：工業化学基礎

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.15	4.0	宿題として各章毎に演習問題を提出させた。
内容の理解度 ⑤	3.70	4.0	1 人 1 人に質問しながら、それぞれの理解度を確認しながら進めていった。
授業時間 ⑦	4.75	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
担当者の熱意 ⑧	4.55	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	使用していた教科書が廃版になった為、それまで使用した内容を基に PPT を使って授業を行った。
理解への配慮 ⑪	4.70	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
伝える工夫 ⑬	4.65	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
アクティブな機会 ⑭	3.65	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.05	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=17 名：受験者数 A=17 名：単位取得者数 B=17 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 3 0 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 自動車実習 I

授業担当者（代表者）名： 東條 雄太

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.89	4.0	初めての自動車実習の中での理解度を深める為に 授業改善し復習・予習を活用して行きたい。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	実習として理解と技術習得に努めていきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.78	4.0	実習と仕事のつながりを理解してもらい、その熱意をもち続けたい。
板書・教材 ⑩	4.78	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	よりわかりやすくする工夫を行っていきたい。
アクティブな機会 ⑭	4.56	4.0	1 人 1 人の考えを持ち寄り行えるような実習体制に持っていき アクティブラーニングへ繋げなければならない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.78	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような「雰囲気づくりを 高めていきたい。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	自主学習の低下、自主性を持たせるなどの課題を優先して改善 して行きたい。

登録者数＝ 9 名： 受験者数 A＝9 名： 単位取得者数 B＝9 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

初めての自動車実習ということもあり、実習内容から自動車の理解を深めることをテーマに進めることが出来たと思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 3 0 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 自動車実習 III

授業担当者（代表者）名： 東條 雄太

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	実習という事柄上、その場にて完結してしまう部分が多かったと思う。改善し復習・予習を活用して行きたい。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	効率のいい時間の使い方を実践していきたい。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意を絶やすことなく、継続した理解につながるようにしたい
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	継続した配慮を行っていきたい
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	わかりやすくする工夫は継続して行っていきたい。
アクティブな機会 ⑭	4.83	4.0	1 人 1 人の考えを持ち寄り行えるような実習体制に持っていきアクティブラーニングへ繋げなければならない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.83	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような「雰囲気づくりを高めていきたい。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	自主学習の低下、自主性を持たせるなどの課題を優先して行きたい。

登録者数＝ 3 名： 受験者数 A＝3 名： 単位取得者数 B＝3 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業に積極的に参加し、達成感を個人個人が感じることが出来るような授業づくりを行って行きたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 3 0 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 自動車実習 V

授業担当者（代表者）名： 東條 雄太

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	卒業に向けたその後の進路を踏まえた 授業指導が出来ればと思う。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	座学との連動を重点に置き、引き上げを含め細かく分野を分け 理解度を確認して行きたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	効率のいい時間の使い方を実践していきたい。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意を絶やすことなく、継続した理解につながるようにしたい
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	継続した教材・板書に努めていきたい
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	わかりやすくする工夫は継続して行っていきたい。
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	1 人 1 人の考えを持ち寄り行えるような実習体制に持っていき アクティブラーニングへ繋げなければならない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.83	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような雰囲気づくりを高 めていきたい。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	自主学習の低下、自主性を持たせるなどの課題を優先して行き たい。

登録者数＝ 9 名： 受験者数 A＝9 名： 単位取得者数 B＝9 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

卒業前の最後の自動車実習ということもあり、就職後も視野に入れた実習を行うことが出来たと思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 9 日

授業対象学科： 3 年

授業科目名： 機械工学実験

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.00	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学習方法の周知徹底をはかる。
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	「完璧に理解」との理解度を示しているが、引き続き分かりやすい授業に努める。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意が感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	「理解に十分に配慮」と配慮しているとの評価ではあるが、より配慮した講義に努める。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	全員が「よく工夫されている」と回答しており、よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	「毎回他の人と討論」と回答。今後、更なる発表・討論の機会を増やしていくよう心掛ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	全員が満足しているが、今後も継続して満足度を上げるよう心掛けていく。

登録者数＝35 名： 受験者数 A＝名 27： 単位取得者数 B＝27 名： 比率（B/A）＝77.1%

総括（自由記述に対する対応含む）：

機械工学実験の授業は、6 人の先生で 6 項目の実験を行い、レポートを提出して単位を認定しているため、期限内に 6 人の教員の分のレポートを提出できていない学生には、単位を認定していない。今年度は期限を守れない学生が多かった。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 30 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.50	4.0	「毎回の指導」と「ほとんどの回で指導」が約 8 割であるが、「されていない」もあり、指導及び指示の理解度が不明である
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	「半分程度の理解」が 33%あり、動画などを用いた説明を増やし、ていねいな説明を心掛ける
授業時間 ⑦	4.50	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	3.83	4.0	理解度の低いが学生にも十分配慮する講義を心掛ける
伝える工夫 ⑬	3.83	4.0	動画や実物などを用いて理解への配慮を心掛ける
アクティブな機会 ⑭	3.83	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	3.83	4.0	「どちらでもない」評価の学生が「満足」評価になるように、理解への配慮と伝える工夫に取り組む

登録者数＝ 6 名： 受験者数 A＝ 6 名： 単位取得者数 B＝ 6 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・用語や構造を理解できるように写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 29 日

授業対象学科：機械システム工学科（1 年）

授業科目名：工業化学基礎

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.15	4.0	宿題として各章毎に演習問題を提出させた。
内容の理解度 ⑤	3.70	4.0	1 人 1 人に質問しながら、それぞれの理解度を確認しながら進めていった。
授業時間 ⑦	4.75	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
担当者の熱意 ⑧	4.55	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	使用していた教科書が廃版になった為、それまで使用した内容を基に PPT を使って授業を行った。
理解への配慮 ⑪	4.70	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
伝える工夫 ⑬	4.65	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
アクティブな機会 ⑭	3.65	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.05	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
全体評価 ⑯	4.25	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=17 名： 受験者数 A=17 名： 単位取得者数 B=17 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 8 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 計算力学

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.39	4.0	おおむね問題ないと認識している
内容の理解度 ⑤	4.07	4.0	おおむね問題ないと認識している
授業時間 ⑦	4.64	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.43	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	4.54	4.0	おおむね問題ないと認識している
伝える工夫 ⑬	4.61	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	3.79	4.0	課題発表などの場を設け、アクティブな学びを促す
自ら学ぶ態度 ⑮	4.54	4.0	おおむね問題ないと認識している
全体評価 ⑯	4.43	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数＝23名： 受験者数 A＝23名： 単位取得者数 B＝21名： 比率（B/A）＝91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね問題ないと認識しているが、発表や討論の機会が不足しているという結果が出た。発表の機会を増やすことにより、改善を図る。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 8 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：数値制御のプログラミング

授業担当者（代表者）名：武田 隆宏

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.38	4.0	おおむね問題ないと認識している
内容の理解度 ⑤	4.05	4.0	おおむね問題ないと認識している
授業時間 ⑦	4.67	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.48	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.81	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	4.24	4.0	おおむね問題ないと認識している
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	課題発表の場を設ける
自ら学ぶ態度 ⑮	4.52	4.0	おおむね問題ないと認識している
全体評価 ⑯	4.43	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数＝23名：受験者数 A＝22名：単位取得者数 B＝22名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね問題ないと認識しているが、発表の機会が少ないとの指摘があった。レポート課題の発表とディスカッションの時間を準備し、アクティブな機会の増加を図る。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 8 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 機械運動学

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.17	4.0	おおむね問題ないと認識している
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	おおむね問題ないと認識している
授業時間 ⑦	4.56	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.78	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	おおむね問題ないと認識している
伝える工夫 ⑬	4.56	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	3.44	4.0	レポート課題の発表の場を設ける
自ら学ぶ態度 ⑮	4.11	4.0	おおむね問題ないと認識している
全体評価 ⑯	4.22	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数＝31名： 受験者数 A＝29名： 単位取得者数 B＝25名： 比率（B/A）＝86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね問題ないと認識しているが、発表の機会が少ないとの指摘があった。レポート課題の発表とディスカッションの時間を準備し、アクティブな機会の増加を図る。



授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 8 日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： メカトロニクス概論

授業担当者（代表者）名： 武田 隆宏

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.5	4.0	おおむね問題ないと認識している
内容の理解度 ⑤	3.8	4.0	理解度の向上を補助する資料を作成する。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.2	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.6	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	4.2	4.0	おおむね問題ないと認識している
伝える工夫 ⑬	4.3	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	4.2	4.0	おおむね問題ないと認識している
自ら学ぶ態度 ⑮	4.3	4.0	おおむね問題ないと認識している
全体評価 ⑯	4.2	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数＝13名： 受験者数 A＝13名： 単位取得者数 B＝12名： 比率（B/A）＝92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね問題ないと認識しているが、内容の理解度が低い結果となった。予習・復習用の資料を作成するなどして、理解度の向上を補助する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 6 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：施工管理Ⅱ

授業担当者（代表者）名：岩元 泉

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.83	4.0	改善が必要 復習課題は行っていたが、予習課題も行っていく必要がる。
内容の理解度 ⑤	4.17	4.0	適度と判断する 理解していると言えるが、更に工夫していきたい
授業時間 ⑦	4.50	4.0	適度と判断する
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	適度と判断する。 更に学生に関心を持つように伝える。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	適度と判断する。 スライドで施工方法など画像を入れて説明していく
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	適度と判断する。 復習に時間をかけて確認する
伝える工夫 ⑬	4.83	4.0	適度と判断する 教科書だけでなく、現在の建設業界の最新情報も伝える
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	改善必要。 オンラインでは難しい状況であったが、学生からも意見が出やすい状況つくる
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	適度と判断する。 更に学生に関心持つようにしていきたい
全体評価 ⑯	4.17	4.0	適度と判断する

登録者数＝ 35 名： 受験者数 A＝ 34 名： 単位取得者数 B＝ 33 名： 比率（B/A）＝97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

更に受講者に関心を持つように改善していく

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 6 日

授業対象学科：全学課 教職課程

授業科目名：土木工学基礎概論

授業担当者（代表者）名：岩元 泉

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.86	4.0	適度と判断する 復習を重点に置いている
内容の理解度 ⑤	4.43	4.0	適度と判断する 理解していると言えるが、更に工夫していきたい
授業時間 ⑦	4.57	4.0	適度と判断する
担当者の熱意 ⑧	4.14	4.0	適度と判断する。 更に学生に関心を持つように伝える。
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	適度と判断する。 スライドで施工方法など画像を入れて説明していく
理解への配慮 ⑪	3.71	4.0	改善が必要する。 他学科の学生なので、確認しながら進めていく必要がある
伝える工夫 ⑬	4.43	4.0	適度と判断する 教科書だけでなく、現在の建設業界の最新情報も伝える
アクティブな機会 ⑭	3.43	4.0	改善必要。 オンラインでは難しい状況であったが、学生からも意見が出やすい状況つくる
自ら学ぶ態度 ⑮	4.86	4.0	適度と判断する。 更に学生に関心持つようにしていきたい
全体評価 ⑯	4.14	4.0	適度と判断する

登録者数＝ 56 名： 受験者数 A＝ 55 名： 単位取得者数 B＝ 55 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

更に受講者に関心を持つように改善していく

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 28 日

授業対象学科： 自然環境工学科

授業科目名： コンピュータリテラシー

授業担当者（代表者）名： 森園由香

所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.88	4.0	コンピュータ操作の得意不得意にかかわらずタイピング練習を実施してコンピュータに慣れさせる指導を継続する。
内容の理解度 ⑤	4.75	4.0	一回の講義で扱う内容を少なくし全員が理解できるよう講義中に何度も練習できるような講義内容とした。今後も継続する。
授業時間 ⑦	4.75	4.0	時間通りに開始し 90 分で完結する内容とした。 今後も継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.75	4.0	在学中に習得すべきスキルやこういった場面で活用できるかを具体的に示し、意欲を持たせるように努めた。
板書・教材 ⑩	4.88	4.0	Zoom の画面共有を使い、学生がついてこられるスピードで操作を行うように努めた。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	操作は必ず 2 回以上説明し、区切りの良いところで必ず全員に向けて疑問点の有無を確認した。
伝える工夫 ⑬	4.88	4.0	声の大きさやスピードをコントロールし、重要なところは学生の注意をこちらに向けるような話し方をするよう努めた。
アクティブな機会 ⑭	3.25	4.0	個人ごとに操作をおこなうためアクティブな機会は設けづらい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	オンライン講義に伴いパソコンを利用する機会が増えたことが一因と考える。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	物足りなさを感じる者がいたかもしれない。レベルの高い学生のための課題を設けるようにしたい。

登録者数=28 名： 受験者数 A=28 名： 単位取得者数 B= 名： 比率 (B/A) = %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 27 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：生命と環境の科学

授業担当者（代表者）名：森園由香

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	ガイダンスで授業計画を説明、該当する教科書のページを示し予習復習ができるように配慮した。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	身近な問題を結びつけることにより興味を持たせるよう努めた。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	時間通りに進められるよう配慮した。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	今後社会において街づくりを通し貢献していく人材として身に付けるべき内容として講義した。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	教科書を中心とし補足的な内容を PPT に示し、穴埋め形式を取り入れるなど工夫した。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	適宜質問や疑問がないか呼びかけ、またこちらから質問するなどして理解度を深める工夫をおこなった。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	時事問題を積極的に取り入れた。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	講義中に課題を与え、指定した時間内で調べさせるなど工夫した。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	講義終了後に復讐のためのレポートを課し、さらに次回の内容についても事前に調べさせるよう工夫した。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	オンライン講義であったが双方向のやり取りができるよう工夫できた。

登録者数＝21 名： 受験者数 A＝21 名： 単位取得者数 B＝18 名： 比率（B/A）＝86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 27 日

授業対象学科： 自然環境工学科

授業科目名： 機能性食品学

授業担当者（代表者）名： 森園由香

所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.86	4.0	教科書を読むよう指導したが、もう少し興味を引く内容をこちらから提示できるよう工夫する。
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	身近な話題と結びつけることにより興味を持たせるよう努めた。
授業時間 ⑦	4.71	4.0	時間通りに進められるよう配慮した。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	食品に関する正確な情報の重要性や世間の関心等についてこれまでの現場経験など踏まえ話すよう努めた。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	教科書を中心とし補足的な内容を PPT に示し、穴埋め形式を取り入れるなど工夫した。
理解への配慮 ⑪	4.71	4.0	適宜質問や疑問がないか呼びかけ、またこちらから質問するなどして理解度を深める工夫をおこなった。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	時事問題やネット上の情報などを取り入れ、より興味をもてるよう工夫した。
アクティブな機会 ⑭	4.29	4.0	講義中に課題を与え、指定した時間内で調べさせるなど工夫した。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.86	4.0	毎日口にする食品について正しい知識を身に付ける大切さについて話すよう努めた。今後も継続する。
全体評価 ⑯	4.71	4.0	双方向のやり取りを取入れながら 3 年次の食品開発に必要な知識について講義できた。

登録者数＝13 名： 受験者数 A＝13 名： 単位取得者数 B＝11 名： 比率（B/A）＝84.6%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 21 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：地球環境概論

授業担当者（代表者）名：村尾 智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.3	4.0	ほぼ毎回、何らかの課題を与えた。このやり方を次年度も踏襲したい。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	土木材料についての理解を深めるため化学結合から講義を開始したが難解であったらしい。教授法を工夫したい。
授業時間 ⑦	4.8	4.0	学生の疲労に配慮し、30 分で一区切りとなるよう、講義の進め方を工夫した。このやり方を次年度も踏襲したい。
担当者の熱意 ⑧	4.2	4.0	土木材料の理解を深める重要な講義である。引き続きベストを尽くしたい。
板書・教材 ⑩	4.6	4.0	手作りの教材を工夫した成果があったと感じている。このやり方を次年度も踏襲したい。
理解への配慮 ⑪	3.7	4.0	英語教材を一部使用したが難解であったらしい。次回は丁寧な解説を心掛けたい。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	Moodle の通信機能で学生と密にやり取りした。このやり方を次年度も踏襲したい。
アクティブな機会 ⑭	3.5	4.0	オンライン授業は学生の主体性をなかなか引き出せないと感じている。工夫を重ねたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	ほぼ毎回、何らかの課題を与えた。このやり方を次年度も踏襲したい。
全体評価 ⑯	3.9	4.0	成績優秀者名の発表、学習意欲加算など、学生が前向きになる工夫を今後も続けたい。

登録者数＝32 名： 受験者数 A＝22 名： 単位取得者数 B＝19 名： 比率（B/A）＝86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

わからないところがあるなら遠慮せずに来室するよう、呼びかけたところ、成績が低迷していた 4 年生 1 名、3 年生 1 名がたびたび研究室を訪問して質問をしてくれた。結果として両名とも良の成績を得た。来年度もこのような良い関係を築きたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 27 日

授業対象学科： 自然環境工学科

授業科目名： 地域デザイン実習

授業担当者（代表者）名： 森園由香

所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	市場にある特産品等についてどのようなポイントを押さえるべきか解説し、日常から開発のヒントを得られるよう指導した。
内容の理解度 ⑤	3.0	4.0	感染症対策でイベント等での販売が叶わず、最終的な目標まで到達できなかった。今後も同様のことが考えられるため販路を再検討する。
授業時間 ⑦	4.0	4.0	準備、片付けまで含めて作業工程を設定し、超過がないよう配慮した。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	なるべく学生のアイディアを活かした開発ができるよう心掛けた。
板書・教材 ⑩	3.0	4.0	特に板書・教材は使用していない。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	グループ活動を中心とし、進捗状況や役割分担に配慮しながら進めた。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	これまでの取り組み実績を中心にどのようなポイントを押さえるべきかわかりやすく伝えるよう工夫した。
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	受講生全員が意見を出せるよう工夫し、学生自らゴールを設定できるよう指導した。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	市販品がどのように開発されているか興味を持つ学生が多くそのような視点を育成していくようさらに工夫する。
全体評価 ⑯	3.0	4.0	イベントが開催できないことを前提として開発から販売までを達成できるよう全体の流れを変える必要がある。

登録者数＝ 6 名： 受験者数 A＝ 6 名： 単位取得者数 B＝ 6 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 21 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：資源再生工学

授業担当者（代表者）名：村尾智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	教材を精読して自習せざるを得ない環境を作るよう意識した。引き続き教科書と手作り教材を併用してゆく。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	私用した教科書は非常に難解であるので時々対面授業とした。次回もコミュニケーションを密に取りたい。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	90 分の授業を無駄にせぬよう 30 分ごとのセグメントに分けた点が評価されたと思う。引き続きこの方法で授業に臨みたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	必修ではないにもかかわらず難解な教科書を購入して受講してくれたため講義に今まで以上に力が入った。引き続き熱意が伝わるよう努力したい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	私用した教科書は一流の著者の手になる原著を担当者が翻訳し一流の出版社から発行した物である。引き続きこの教材を使用する。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	手作り教材によって理解を助けたが、やや難解であったかもしれない。さらなる工夫を続けたい。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	難語を解説する時間をもっと増やしたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	一度、廃坑の巡検を行い、実感を持たせたことが高評価につながったのではない。次回もこのような工夫をしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	受講生と真正面から向き合う事で彼ら自身が意識を変えていった。次回、受講人数が増えても、できるだけ、一人一人と向き合う時間を取りたい。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	難解な教材にあえて挑戦した達成感を受講生が味わえるよう工夫を重ねたい。

登録者数＝ 2 名： 受験者数 A＝ 2 名： 単位取得者数 B＝ 2 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

特になし。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 19 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：測量学 I

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	目標どおり。
内容の理解度 ⑤	3.72	4.0	オンラインでは理解が難しかったかも知れない。
授業時間 ⑦	4.11	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.39	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.56	4.0	目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	目標を超えている。
伝える工夫 ⑬	4.11	4.0	目標を超えている。
アクティブな機会 ⑭	3.61	4.0	オンラインでは難しい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	目標どおり。
全体評価 ⑯	4.22	4.0	目標を超えている。

登録者数=48 名：受験者数 A=48 名：単位取得者数 B=48 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 19 日

授業対象学科： 自然環境工学科

授業科目名： 測量実習

授業担当者（代表者）名： 田中龍児

所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.22	4.0	目標どおり。
内容の理解度 ⑤	4.44	4.0	目標を超えている。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.89	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	目標を超えている。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	目標を超えている。
アクティブな機会 ⑭	4.22	4.0	目標を超えている。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	目標を超えている。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	目標を超えている。

登録者数=20 名： 受験者数 A=20 名： 単位取得者数 B=20 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 19 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：土質工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.80	4.0	オンラインのため伝わらなかったかも知れない。
内容の理解度 ⑤	3.60	4.0	内容的に難しく感じたかも知れない。オンラインのため伝わらなかったかも知れない。
授業時間 ⑦	4.20	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.40	4.0	目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	目標を超えている。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	目標どおり。
アクティブな機会 ⑭	3.20	4.0	オンラインでは授業を進めるのがやっとだった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.20	4.0	目標を超えている。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	目標どおり。

登録者数＝16 名：受験者数 A＝16 名：単位取得者数 B＝16 名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 19 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：道路工学

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	目標どおり。
内容の理解度 ⑤	3.75	4.0	オンラインのため伝わらなかったかも知れない。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.58	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	目標を超えている。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	目標を超えている。
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	オンラインでは授業を進めるのがやっとだった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	目標を超えている。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	目標を超えている。

登録者数=30 名：受験者数 A=30 名：単位取得者数 B=30 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：土木材料学

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	毎回の宿題や予習の課題を準備して自主学習の習慣を身に付けさせたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	学生とのやり取り、学生と学生とのやり取りを継続して取り入れて行きたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	学問の趣旨なぜこれを学ばないといけないかを、これまでにしっかりと周知しておりその評価であると考えている。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	反省を行いブラッシュアップしていきたい。

登録者数＝16 名：受験者数 A＝16 名：単位取得者数 B＝16 名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の施工過程や構造物機構とリンクさせて今後は講義を継続していきたい。
予習復習の課題を用意していく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：橋梁工学

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.00	4.0	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	予習復習をさせるようにする課題もさらに追加。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数＝25 名：受験者数 A＝25 名：単位取得者数 B＝24 名：比率（B/A）＝96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の橋梁設計や施工とリンクさせて今後も講義を展開していきたい。
予習復習の課題を用意していく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：水理学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.33	4.5	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.5	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.5	予習復習をさせるようにする課題もさらに追加。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.5	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
板書・教材 ⑩	4.00	4.5	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.5	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.5	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.5	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.5	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.33	4.5	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数＝21 名：受験者数 A＝21 名：単位取得者数 B＝21 名：比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて今後も講義を展開していきたい。
予習復習の課題を用意していく。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：自然環境キャリア演習

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	毎回の宿題や予習の課題を準備して自主学習の習慣を身に付けさせたい。
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	学生とのやり取り、学生と学生とのやり取りを継続して取り入れて行きたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	学問の趣旨なぜこれを学ばないといけないかを、これまでにしっかりと周知しておりその評価であると考えている。
全体評価 ⑯	3.67	4.0	反省を行いブラッシュアップしていきたい。

登録者数=27 名： 受験者数 A=27 名： 単位取得者数 B=27 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

時事に関する問いかけや課題もブラッシュアップして提供したい。
 予習復習の課題を用意し習熟に努めたい。
 課題を充実させたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 16 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築材用・構造実験

授業担当者（代表者）名：難波 礼治・岩元 泉

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.60	4.5	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.20	4.5	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.20	4.5	実験値と理論値、で「解」を求めている。解の違いや差異について興味をもってもらいたい。
担当者の熱意 ⑧	4.20	4.5	しっかり個々が実験に携われる機会を継続して与えて行きたい。
板書・教材 ⑩	4.80	4.5	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.40	4.5	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.5	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	3.80	4.5	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.80	4.5	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.00	4.5	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数=25 名：受験者数 A=24 名：単位取得者数 B=24 名：比率 (B/A) =96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

実験の内容を自然現象とリンクさせてわかりやすい解説で実験を継続していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 17 日

授業対象学科： 環境システムコース

授業科目名： ランドスケープ論

授業担当者（代表者）名：福山 厚子

所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	レポートの提出回数を増やすなど工夫をした。
内容の理解度 ⑤	4.9	4.0	レポートの課題を工夫し回答内容で理解度を確認した。また、LINE で質問を受け付けた。
授業時間 ⑦	4.9	4.0	15 回の授業の時間配分に注意した。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	オンラインになり、パワーポイントの工夫をした。画像を多くし、わかりやすく、飽きさせないように努め、LINE で個人とコミュニケーションを図った。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	写真やイラストなどで分かりやすく飽きさせない工夫に重視した。
理解への配慮 ⑪	4.8	4.0	授業の準備時間は対面式よりもかなり多くかけた。さらに課題の内容で理解度を図り、授業に反映させた。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	飽きさせない、理解しやすいパワーポイント作りの工夫を行った。
アクティブな機会 ⑭	4.1	4.0	今年度は全てオンラインだったため、課題に、近所の公園や街路樹を調査することも取り入れた。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.8	4.0	課題の回数を多くした。しかし、負担にならないように内容量を少なくし、提出ができるよう工夫した。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	オンライン授業で皆大変だったと思うが、対面と違う集中力や自主学習力が付いたことを実感する。

登録者数＝ 31 名： 受験者数 A＝ 31 名： 単位取得者数 B＝ 30 名： 比率（B/A）＝ 97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンライン授業になり、コミュニケーションの取り方に気を使った。必ず LINE を一人一人に送り、個人から感想や質問をもらい、やり取りを行い、授業の進行状況や理解度などを把握した。主に、理解しやすいパワーポイント作りを工夫し、レポートの課題もなるべく負担にならない量にするなど、提出できることも配慮した。

特に LINE を使ったコミュニケーションは有効的と感じた。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 20 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築構法

授業担当者（代表者）名：山尾和廣

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.69	4.0	
内容の理解度 ⑤	3.77	4.0	
授業時間 ⑦	4.92	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.77	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.92	4.0	
アクティブな機会 ⑭	2.85	4.0	Moodle を使った授業での限界を感じる
自ら学ぶ態度 ⑮	4.69	4.0	
全体評価 ⑯	4.31	4.0	

登録者数=28 名：受験者数 A=26 名：単位取得者数 B=24 名：比率 (B/A) =92 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

リモート授業での双方向性確保の工夫を検討したい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 20 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：構造力学 I

授業担当者（代表者）名：山尾和廣

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.59	4.0	
内容の理解度 ⑤	3.71	4.0	例年の事だが一部学生の構造力学への苦手意識の克服が課題
授業時間 ⑦	4.53	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.24	4.0	
板書・教材 ⑩	4.41	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.12	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.06	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.35	4.0	Moodle を使った授業での限界を感じる
自ら学ぶ態度 ⑮	4.41	4.0	
全体評価 ⑯	4.0	4.0	

登録者数=38 名：受験者数 A=36 名：単位取得者数 B=34 名：比率 (B/A) =94 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

リモート授業での双方向性確保を検討したい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 20 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：構造力学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：山尾和廣

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	
内容の理解度 ⑤	3.70	4.0	一部学生の構造力学への苦手意識の克服が課題→補習の充実
授業時間 ⑦	4.80	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.20	4.0	
板書・教材 ⑩	4.70	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.10	4.0	
伝える工夫 ⑬	44.45	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.90	4.0	Moodle を使った授業での限界を感じる
自ら学ぶ態度 ⑮	4.65	4.0	
全体評価 ⑯	4.2	4.0	

登録者数=34 名：受験者数 A=34 名：単位取得者数 B=31 名：比率 (B/A) =91 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

リモート授業での双方向性確保の工夫が検討課題。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築材料

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.95	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 自主学習について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	3.95	4.0	おおむね理解できているようだが、難易度の見直しと確認を しながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.45	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.10	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	3.05	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.30	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.10	4.0	現状を継続

登録者数＝ 21 名： 受験者数 A＝ 18 名： 単位取得者数 B＝ 18 名： 比率(B/A)＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築材料は、建築に必要な基礎的科目でもある。

全体評価を見ると 4.10 と概ね良かったのではないかと思います。

自主学習を指導し、内容の理解度を深めながら、アクティブな機会を増やしたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築史

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.70	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 自主学習について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	4.40	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.60	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.20	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.80	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	3.30	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.40	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.20	4.0	現状を継続

登録者数＝ 38 名： 受験者数 A＝ 34 名： 単位取得者数 B＝ 34 名： 比率(B/A)＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築史は、建築の基礎となる科目でもある。

全体評価を見ると 4.20 と概ね良かったのではないかと思います。

自主学習を指導し、アクティブな機会を増やしていきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築都市デザイン

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.50	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.83	4.0	おおむね理解できているようだが、難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.83	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.67	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	2.00	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	3.83	4.0	内容を見直ししながら、必要に応じて改善する。

登録者数＝ 34 名： 受験者数 A＝ 34 名： 単位取得者数 B＝ 34 名： 比率(B/A)＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築都市デザインは、建築の基礎となる科目でもある。

内容の理解度を深めながら、アクティブな機会を増やし、全体評価を高める講義としたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：環境工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.20	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.60	4.0	おおむね理解できているようだが、難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.80	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.60	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.80	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	2.80	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.60	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 学ぶ態度について意識づけを行う。
全体評価 ⑯	4.20	4.0	現状を継続

登録者数＝ 36 名： 受験者数 A＝ 33 名： 単位取得者数 B＝ 33 名： 比率(B/A)＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

環境工学は、建築学に必要な工学的アプローチを包含する科目でもある。

全体評価を見ると 4.20 と概ね良かったのではないかと思います。

内容の理解度を深めながら、アクティブな機会を増やし、自らが学ぶ態度を高める講義としたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：福祉環境デザイン特論

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.00	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	4.75	4.0	現状を継続
授業時間 ⑦	5.00	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.88	4.0	現状を継続

登録者数＝ 20 名： 受験者数 A＝ 19 名： 単位取得者数 B＝ 19 名： 比率(B/A)＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

福祉環境計画は、これからの時代に必要な科目でもある。

全体評価を見ると 4.88 と概ね良かったのではないかと思います。

現状を継続して取り組んでいきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：インテリア建築都市デザイン演習 I

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.18	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.91	4.0	おおむね理解できているようだが、難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.64	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.55	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.27	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.27	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.36	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.36	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.47	4.0	現状を継続

登録者数＝ 38 名： 受験者数 A＝ 34 名： 単位取得者数 B＝ 34 名： 比率 (B/A)＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

インテリア建築都市デザイン演習 I は、はじめての設計演習の科目でもある。

全体評価を見ると 4.47 と概ね良かったのではないかと思います。

内容の理解度を深めていきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：建築デザイン学科 3 年

授業科目名：建築生産特論

授業担当者（代表者）名：堀口譲司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
授業時間 ⑦	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	特に問題が無いので、これまで通りとする
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	やはり Zoom の授業では意見交換や討論には限界がある。 Zoom 上での質問や意見を聞く機会をつくりたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.0	4.0	やはり Zoom の授業では意見交換や討論には限界がある。 Zoom 上での質問や意見を聞く機会をつくりたい。
全体評価 ⑯	3.0	4.0	常に学生とのコミュニケーションを重視して授業を行う。

登録者数＝ 28 名： 受験者数 A＝ 28 名： 単位取得者数 B＝ 25 名： 比率（B/A）＝ 89%

総括（自由記述に対する対応含む）：

専門外ではあったが、教えられる教員がいなかったため急遽自分が教えることになった。

2021 年度は施工の専門教員がいるため充実した内容になると期待する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：工学デザイン基礎Ⅱ

授業担当者（代表者）名：堀口譲司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.5	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
内容の理解度 ⑤	4.57	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
授業時間 ⑦	4.79	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
理解への配慮 ⑪	4.64	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
アクティブな機会 ⑭	4.73	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.93	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。

登録者数＝ 30 名： 受験者数 A＝30 名： 単位取得者数 B＝30 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

バラエティーに富んだ課題を出題し、講評もパワーポイントで評価順におこなったことで、学生のモチベーションが上がったと思う。2021 年度も踏襲していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築デザイン特論

授業担当者（代表者）名：堀口譲司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.5	4.0	Zoom での授業だったため一方向になった感は否めない。 今後双方向の授業を模索したい。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
授業時間 ⑦	4.75	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
担当者の熱意 ⑧	4.5	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
伝える工夫 ⑬	3.75	4.0	かなり工夫したつもりであるが、今後よりわかりやすく伝える 工夫を行っていく。
アクティブな機会 ⑭	2.5	4.0	Zoom での授業だったため一方向になった感は否めない。 今後双方向の授業を模索したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.75	4.0	Zoom での授業だったため一方向になった感は否めない。 今後双方向の授業を模索したい。
全体評価 ⑯	3.5	4.0	Zoom での授業だったため一方向になった感は否めない。 今後双方向の授業を模索したい。

登録者数＝ 30 名： 受験者数 A＝ 30 名： 単位取得者数 B＝28 名： 比率（B/A）＝ 93%

総括（自由記述に対する対応含む）：

かなりの準備期間をもって臨んだつもりではあるが、やはり Zoom 授業の限界を感じる。

2021 年度は、もう少し双方向のコミュニケーションを考えていきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：インテリア建築都市デザイン演習Ⅲ

授業担当者（代表者）名：堀口譲司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う。
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
授業時間 ⑦	5.0	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
担当者の熱意 ⑧	3.75	4.0	かなりの熱意をもって行ったつもりであるが、今後はより強い熱意で臨みたい。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
理解への配慮 ⑪	4.25	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
アクティブな機会 ⑭	4.75	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	特に問題がないため、今後継続して行う
全体評価 ⑯	3.75	4.0	かなりの熱意をもって行ったつもりであるが、今後はより強い熱意で臨みたい。

登録者数＝ 32 名： 受験者数 A＝ 31 名： 単位取得者数 B＝ 31 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

課題を民間の設計コンペにしたので、学生のモチベーションが上がったように思う。

2021 年度も同様にしたいと考える。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 19 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリア建築都市デザイン演習 V

授業担当者（代表者）名： 堀口譲司

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.0	4.0	自主学習の機会を与えたつもりであるが、今後より工夫して行いたい.
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	特に問題がないため今後継続して行う.
授業時間 ⑦	4.5	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
担当者の熱意 ⑧	4.5	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	特に問題がないため今後継続して行う
全体評価 ⑯	3.5	4.0	難易度の高い課題であったため半数近くが課題未提出となった. 次回はもう少し難易度を低くした課題設定を行う.

登録者数＝ 名： 受験者数 A＝ 名： 単位取得者数 B＝ 名： 比率 (B/A) ＝ %

総括（自由記述に対する対応含む）：

難易度の高い課題であったため半数近くが課題未提出となった. 2021 年度はもう少し難易度を低くした課題設定を行う. また 2 課題に設定するつもりである.

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリア計画 I

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.23	4.0	課題を出し、授業外の時間でも自ら学習できるようにする。
内容の理解度 ⑤	3.92	4.0	授業中に課題を出し、内容の理解度を確認する。
授業時間 ⑦	4.69	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.15	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.62	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	3.69	4.0	なるべく一人ひとりに声をかけ、授業の内容に対する理解度を確認する。
伝える工夫 ⑬	4.31	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.54	4.0	課題発表などを通して自分の意見を発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.15	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.08	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数＝ 26 名： 受験者数 A＝ 26 名： 単位取得者数 B＝ 18 名： 比率（B/A）＝ 69%

総括（自由記述に対する対応含む）：

もっと楽しく勉強できる環境をつくるために、授業の内容および指導の仕方について工夫する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリア計画Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.21	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.43	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.93	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.29	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.14	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.14	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.21	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.86	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数＝ 28 名： 受験者数 A＝ 28 名： 単位取得者数 B＝ 24 名： 比率（B/A）＝ 86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生にとってより良い授業環境を作るため、工夫する。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリア施工

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.67	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.17	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	2.33	4.0	課題の発表の時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数＝ 29 名： 受験者数 A＝ 29 名： 単位取得者数 B＝ 17 名： 比率（B/A）＝ 59%

総括（自由記述に対する対応含む）：

ものづくりだけでなく、作ったものを用いた発表会を行い、意見交換ができる授業にする。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： インテリアデザイン特論

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.59	4.0	授業の内容を用いて討論会を開く。
内容の理解度 ⑤	3.86	4.0	よりわかりやすい教材を用意する。
授業時間 ⑦	4.77	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.91	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.36	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.91	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	4.41	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.64	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数＝ 16 名： 受験者数 A＝ 16 名： 単位取得者数 B＝ 16 名： 比率（B/A）＝ 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

インテリアデザインに関する自由討論を行う。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 建築 CAD

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.26	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.09	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.74	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.88	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.88	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.81	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.91	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.79	4.0	設計課題を出す。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.44	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.56	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数＝ 38 名： 受験者数 A＝ 38 名： 単位取得者数 B＝ 35 名： 比率（B/A）＝ 92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

設計課題を出し、自分が考えた空間を表現する時間を設ける。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 建築工学基礎概論

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.82	4.0	文献調査の課題を出す。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.65	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.35	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.88	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	3.59	4.0	よりわかりやすい資料を用意する。
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	2.88	4.0	課題を出し、発表の時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.35	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.24	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数＝ 36 名： 受験者数 A＝ 36 名： 単位取得者数 B＝ 30 名： 比率（B/A）＝ 83%

総括（自由記述に対する対応含む）：

自主学習ができるように課題を出し、課題の発表時間を設ける。

授業改善計画書（令和 2 年度 後期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 19 日

授業対象学科：1 学年（全学科）

授業科目名：基礎微分積分学 C クラス

授業担当者（代表者）名：竹下俊一 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.70	4.0	毎回、指導・指示を受けていたが、70.0%であったが、クラス全員に終始徹底できるように工夫が必要。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	完璧に理解しているが 60.0%、ある程度理解しているが 30.0%であるが、工夫が必要と思う。
授業時間 ⑦	4.90	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.90	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	教材は十分であったが 100%だが、もっと内容を伝える工夫が必要と思う。今後も努力していきたい。
理解への配慮 ⑪	100	4.0	理解度に十分に配慮が、100%であるが、まだまだ全員に理解をさせる工夫が必要。
伝える工夫 ⑬	4.80	4.0	よく工夫されているが、80.0%であったが、理解度の高い工夫が必要と感じる。
アクティブな機会 ⑭	4.30	4.0	毎回他の人と討論するが、50.0%であったが、もっとクラス全体で取り組む講義工夫が必要である
自ら学ぶ態度 ⑮	4.40	4.0	積極的に学習する態度が、60.0%、自ら考えた機会が多いが、30.0%であるが、もっと工夫が必要である。
全体評価 ⑯	4.80	4.0	「大変満足」が 80.0%「満足」が 20.0%だが、今後もっと工夫を進める必要がある。

登録者数＝43 名： 受験者数 A＝39 名： 単位取得者数 B＝39 名： 比率（B/A）＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、試験（70%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者が 100%であったが、欠席オーバーの学生もあり、また欠席の多い学生も若干いるので、講義を通じて生活面の指導も行っていきたい。

復習や小テストを増やしもっと理解を深めさせたい。

その他：自由記述について、特に要望等はありませんでした。